千葉県文化財センター

研究紀要

4

考古学から見た房総文化

― 古墳時代 ―

（墓制の基礎資料）

昭和54年3月

財団法人　千葉県文化財センター

序

財団法人千葉県文化財センターは、千葉県内における埋蔵文化財の調査・研究をすすめるとともに、開発と環境整備の調和を図り、地域文化の充実に寄与することを目的として設立され、すでに4年を経過いたしました。

この間、首都圏に位置する本県の開発も進み、これに対応して埋蔵文化財の保護はさらに緊急かつ重要な課題となり、そのため当センターの調査研究員も50名に増員されました。このうち12名は研究部の兼務で、各自が与えられた課題の研究に取り組んできました。

今年度の研究部事業は、出土遺物の保存処理法、報告書の作成法、資料の収集整理法、調査計画の立案、調査方法等の検討、ならびに研究紀要の執筆であります。

本書は、「考古学から見た房総文化」をテーマとし、昭和50年度の「先土器時代」に始まり順次「縄文時代」・「弥生時代」を刊行してきたのに続いて「古墳時代」を対象としたもので、750基をこえる同時代墓制の基礎資料の集成を主眼とし、文献目録・古墳の概要一覧・諸要素別古墳一覧に分けて収載しました。

皆様方の古墳時代研究の資料として広く活用されることを希望します。終りに、兼務という条件のもとで研究に専念された調査研究員ならびに関係者各位に厚く御礼申し上げます。

昭和54年3月

財団法人　千葉県文化財センター

理事長　今　井　正

例　　言

1. 本書の作成は、杉山晋作・沼沢豊・豊田佳伸・高田博・相京邦彦の５名の共同作業によった。
2. 文献目録については、房総の古墳に関する研究文献を明治時代以降から収載し、発表年代順に並べた。ただし、墳丘・内部施設・遺物等の単なる引用のみの論文・報文については、省略したものがある。
3. 古墳概要については、調査あるいは何らかの要因でその内容が知られている古墳の概要を説明することとし、記述に際して名称（別称）・所在地・調査年・調査者（担当者）・立地・墳丘（平面形・規模・周堀を含む）・外部施設・内部施設・遺物（出土状態を含む）・推定年代・特異点・古墳の現状・遺物保管者・文献番号を含むよう配慮した。しかし、これらの項目のうち不明のものも多く存在する。また、遺物の名称あるいは年代等に原典の報告通りでは今日不適当であるものも含まれているので可能な範囲において修正した。

   なお、収載順については、現市町村別に分割したものを、第１図のとおり南から東京湾沿いに北上し、利根川流域を降った後、太平洋岸を南下するよう、旧郡を意識して番号を付した。

   横穴については、立地が他と異なるため別に収載した。なお、封土を有するかどうか今日では判断が困難な方形周溝墓等については封土を有するものと同一に扱い、弥生時代に含まれる例も収載した。
4. 要素別古墳一覧については、古墳を構成するところの墳形・外部施設・内部施設を大別し、特に遺物に関しては、埴輪のほか土器・祭祀品・宝飾品・武器・武具・工具・馬具等をさらに分けた。それぞれについての詳細な分類は今後の研究に委ねることとし、諸要素の組合せ等の検索に便宜を図るのみにとどめた。
5. 本書の作成過程において簡略化したパンチカードを用いた。諸要素の組合せを検討される際に、概略を把握される目的で活用願えれば幸いである。
6. 文献等の収集に際して、千葉県文化財センター有志の集りである古墳時代勉強会（谷旬・佐久間豊・萩野谷悟・上村淳一・上野純司・石倉亮治・杉崎茂樹・関口達彦・加藤修司・白井久美子・小久貫隆史）ほか多くの方々の御協力を得た。記して謝意を表しておきたい。
7. 本書の挿図は、国土地理院発行の５万分の１地形図（千葉県内各地）を使用して作成した。
8. 挿図の縮尺は第１図を除いて、10万分の１に統一した。

目　　次

序……今　井　　正
Ⅰ　はじめに……1
Ⅱ　文献目録……2
1.　明　治……2
2.　大　正……2
3.　昭　和……3
Ⅲ　古墳概要……41
1.　（古墳・方形周溝遺構）
館山市……41
鴨川市……41
富津市……41
君津市……46
木更津市……48
市原市……60
千葉市……80
習志野市……94
船橋市……95
市川市……96
松戸市……97
流山市……98
野田市……101
柏　市……101
我孫子市……102
沼南町……106
白井町……108
印西町……109
八千代市……110
佐倉市……111
四街道町……118
富里村……119
印旛村……120
栄　町……120
成田市……121
下総町……130
神崎町……131
大栄町……132
佐原市……132
小見川町……135
東庄町……140
銚子市……141
干潟町……142
八日市場市……142
光　町……143
多古町……145
横芝町……147
芝山町……147
松尾町……149
成東町……149
山武町……150
東金市……151
一宮町……152
睦沢村……152
長南町……153
大多喜町……154

2.　（横穴）

館山市…… 156
富津市…… 156
君津市…… 161
市原市…… 162
千葉市…… 168
酒々井町…… 169
下総町…… 169
大栄町…… 169
佐原市…… 170
東庄町…… 172
銚子市…… 172
飯岡町…… 174
八日市場市…… 174
多古町…… 175
大網白里町…… 176
茂原市…… 176
長柄町…… 177
一宮町…… 179
長南町…… 180

Ⅳ　要素別古墳一覧…… 185

1.　墳　形

前方後円墳…… 185
前方後方墳…… 186
方　墳…… 186
円　墳…… 188
横　穴…… 190

2.　内部施設

横穴式石室…… 193
竪穴式石室…… 194
石　棺…… 194
粘土施設…… 195
木炭施設…… 195
土壙・直葬…… 195
特殊施設…… 197

3.　遺　物

円筒埴輪…… 198
形象埴輪…… 199
土師器…… 200
須恵器…… 201
石　枕…… 203
立　花…… 203
石製模造品…… 203
朱・赤色料…… 204
鏡…… 204
車輪石…… 204
石　釧…… 205
銅　釧…… 205
冠…… 205
櫛…… 205
耳　環…… 205
垂耳飾…… 206
管　玉…… 206
勾　玉…… 207
切子玉…… 208
棗　玉…… 208
丸　玉…… 209
小　玉…… 209
臼　玉…… 210
空　玉…… 211

銅　玉…… 211
腰　佩…… 211
鈴…… 211
帯金具…… 211
銅　鋺…… 211
環頭大刀…… 211
頭椎大刀…… 212
圭頭大刀…… 212
方頭大刀…… 212
円頭大刀…… 212
剣…… 212
直　刀…… 213
三輪玉…… 215
銅　鏃…… 215
鉄　鏃…… 215
矛・鎗…… 216
冑…… 217
短　甲…… 217
挂　甲…… 217
胡　籙…… 217
斧…… 217
鎌…… 218
鍬・鋤…… 218
鋸…… 218
鑿…… 218
針…… 218
錐…… 218
刀　子…… 219
釘…… 220
砥　石…… 220
紡錘車…… 220
轡…… 221
鞍…… 221
鐙…… 221
辻金具・雲珠…… 221

挿　図　目　次

第１図　市町村位置図……17
第２図　館山市主要古墳位置図……18
第３図　富津市主要古墳位置図……19
第４図　君津市・木更津市主要古墳位置図……20
第５図　市原市主要古墳位置図……21
第６図　千葉市主要古墳位置図……22
第７図　習志野市・船橋市・八千代市主要古墳位置図……23
第８図　市川市・松戸市主要古墳位置図……24
第９図　流山市・野田市・柏市主要古墳位置図……25
第10図　我孫子市・沼南町主要古墳位置図……26
第11図　白井町・印西町・印旛村主要古墳位置図……27
第12図　佐倉市・四街道町主要古墳位置図……28
第13図　酒々井町・富里村主要古墳位置図……29
第14図　栄町・成田市主要古墳位置図……30
第15図　下総町・神崎町・大栄町・佐原市主要古墳位置図……31
第16図　小見川町・東庄町主要古墳位置図……32
第17図　銚子市主要古墳位置図……33
第18図　飯岡町・干潟町主要古墳位置図……34
第19図　八日市場市・光町・多古町主要古墳位置図……35
第20図　横芝町・芝山町・松尾町・山武町主要古墳位置図……36
第21図　東金市・大網白里町主要古墳位置図……37
第22図　茂原市・長柄町・一宮町・睦沢村・長南町主要古墳位置図……38
第23図　大多喜町周辺主要古墳位置図……39

Ⅰ はじめに

千葉県文化財センターの『研究紀要』の刊行は、5か年計画にて「考古学から見た房総文化」と副題を付し、昭和50年度の先土器時代から始まり、縄文時代・弥生時代を経て、昭和53年度に古墳時代を対象とするに至った。

今年度、古墳時代を対象としながら、あえて「墓制」に限定したのは、この時代の最たる特徴が古墳にあることによるためであり、また、古墳を造営させる集落等の背景の基盤は、今回とりあげるに充分なる調査・研究がなされていないこともその理由となった。過去の人間の行動軌跡を今日認め得る残影のみによって再現する場合、特に古墳時代にあっては、無意識の連続した行為の産物からでなく、意識的・断続的行為の産物からによるほうが、よりその転換の契機や結果的現象を把え得るのではないかと考えているからである。

また、古墳時代は、弥生時代以前と比較して遺構・遺物も多く、かつ、その文化的諸様相も複雑多岐にわたっており、これを限定された期間と制約された条件下で、すべての問題点について言及することは困難であるため、基礎資料の集成を主眼とした。

その第1は、過去の房総の古墳に関する研究文献目録の作成であり、今日までの研究の軌跡をたどることができる。

第2は、今日までに調査または何らかの要因でその内容を知ることができた個々の古墳の概要であり、地域を分割して説明した。

第3は、個々の古墳に現れた諸様相を、索引項目として設定し、今後の研究のために該当古墳の検索を簡便化した。

以上の内容に関し、古墳の位置図以外一切の図および写真を収載しない点で集成としては未完成であり、また、さらに詳細な資料分析を行っていない点で、従来の研究紀要とは性格を異にしたが、データの蓄積を主眼とした点を了承願い、今後の研究紀要でその結実を見たいと考えている。

Ⅱ 文 献 目 録

1 明　　治

1　明治19年　黒木安雄「上総地方洞穴及私考」(『人類学会報告』第9号)
2　明治20年　〃　「上総地方ノ洞穴、接前号」(『人類学会報告』第11号)
3　〃　金田檜太郎「上総国市原郡内横穴報告」(『人類学会報告』第15号)
4　〃　若林勝邦「下総国香取郡神崎の発見品」(『考古学会雑誌』第2巻第11号)
5　明治27年　八木奘三郎・下村三四吉「下総香取郡西大須賀村ノ横穴」(『東京人類学会雑誌』第95号)
6　明治33年　大野延太郎「下総国滑河横穴発見遺物」(『東京人類学会雑誌』第177号)
7　明治34年　鈴木成章「上総国周准郡の古塚」(『考古界』第1篇第2号)
8　明治35年　八木奘三郎「下総手賀村の埴輪土偶」(『東京人類学会雑誌』第195号)
9　明治37年　吉田文俊「下総金野井の埴輪土偶」(『考古界』第3篇第11号)
10　〃　吉田文俊「下総御出子の古墳」(『東京人類学会雑誌』第214号)
11　〃　和田千吉「下総国香取郡西大須賀の横穴」(『考古界』第4篇第7号)
12　明治39年　〃　「下総国東葛郡手賀村大字布瀬発見の埴輪馬」(『東京人類学会雑誌』第238号)
13　〃　柴田常恵「上総国君津郡飯野村内裏塚」(『東京人類学会雑誌』第249号)
14　〃　坪井正五郎「千葉県君津郡飯野地方の古墳」(『東京人類学会雑誌』)
15　明治41年　井野辺茂雄「神社と古墳との関係」(『国学院雑誌』第14巻第8号)
16　明治42年　和田千吉「下総国北生実の古墳発掘」(『考古界』第8篇第4号)
17　〃　〃　「下総国金岡発掘の古墳(1)」(『考古界』第8篇第5号)
18　明治44年　〃　「上総国飯野発掘の金銅丸玉」(『考古学雑誌』第1巻第11号)
19　明治45年　柴田常恵「下総我孫子町子の神の古墳」(『人類学雑誌』第28巻第3号)

2 大　　正

20　大正8年　『日本埴輪図集　上』
21　大正10年　『千葉県香取郡誌』
22　大正11年　小松真一「下総国に於ける或三四の石室古墳」(『人類学雑誌』第37巻第4号)
23　大正15年　「大網町宮谷横穴」「神崎町小松古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第2輯)

3 昭　　和

24　昭和2年　『千葉県君津郡誌』上巻

25　〃　「東條村広場古墳」「菊間村東関山古墳」「大総村中台古墳」「二川村高田古墳」「青堀町西原古墳」「飯野村方形古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第4輯)

26　昭和3年　「大貫町小久保弁天山古墳」「一宮町ノ横穴」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第5輯)

27　昭和4年　「神道山古墳」「東大戸村白幡古墳」「姉崎町二子塚及大塚古墳」「清川村古墳」「巌根村高柳ノ古墳並ニ至徳堂址」「高滝村外部田横穴」「鶴舞町大和田横穴」「鶴舞町池和田横穴」「豊房村南条横穴群及ビ東長田横穴群」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第6輯)

28　〃　谷木光之助「天神山横穴について」(『房総研究』1～4)

29　〃　内藤政光「下総国外部田の横穴について」(『人類学雑誌』第19巻第2号)

30　〃　谷木光之助「上総における線刻画を有する横穴」(『武蔵野』第13巻第5・6合併号)

31　昭和5年　「彌富村岩富古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第7輯)

32　〃　谷木光之助「上総国君津郡清川村長須賀圓山古墳」(『考古学』第1巻第2号)

33　昭和6年　「安食村麻生古墳」(『史蹟名勝天然紀念物調査』第8輯)

34　昭和8年　浅田芳郎「下総と播磨発見の埴輪」(『考古学』第6巻第4号)

35　昭和11年　三木文雄「上総国長生郡二宮本郷村押日横穴群の研究」(『人類学雑誌』第261巻第2号)

36　〃　後藤守一・塩原伝「下総国香取郡米沢村及其附近の遺跡並に遺物に就いて」(『考古学雑誌』第26巻第11号)

37　昭和12年　高橋勇「上総国君津郡飯野村大字二間塚字向原古墳」(『古墳発掘品調査報告』)

38　昭和23年　下津谷達男・杉崎凌一「初石古墳群発掘概報」(『上代文化』第18輯)

39　昭和24年　大塚初重「上総能満寺古墳発掘調査報告」(『考古学集刊』第3冊)

40　〃　桜井清彦「郡本古墳」小川清「神門古墳」(『千葉県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第1輯)

41　昭和25年　滝口宏「下総竜角寺円墳」玉口時雄「西上総金鈴塚古墳発掘予報」(『古代』第1・2合併号)

42　昭和26年　早稲田大学考古学研究室編『上総金鈴塚古墳』

43　〃　亀井正道「古墳出土の石枕について」下津谷達男「千葉県新川村古墳群発掘調査概報」古宮隆信「千葉県東葛飾郡柏町天神台、風早村船戸古墳群発掘調査概報」(『上代文化』第20輯)

44　〃　樋口清之「千葉県東葛飾郡新川村古墳」(『日本考古学年報』1)

45　〃　大場磐雄・亀井正道「上総国姉ヶ崎二子塚発掘調査概報」(『考古学雑誌』第37巻第3号)

46　〃　小出義治「千葉県印旛郡酒々井町新堀横穴第1号墳調査報告」(『上代文化』第21輯)

47　〃　軽部慈恩・村越潔他「千葉県山武郡成東町不動塚前方後円墳調査概報」(『日本大学文学部研究年報』第2輯)

48　昭和27年　神尾明正「金鈴塚の砂と石とについて」(『古代』第6号)

49　〃　古宮隆信他『文京区立柏学園附近戸張遺蹟調査概報』

50　〃　玉口時雄「上総飯野村西谷古墳調査報告」(『古代』第7・8合併号)

51　昭和28年　滝口宏「上総大多喜の古墳、大多喜台の前方後円墳」大川清「千葉県香取郡昭栄村地蔵原第1号墳」(『古代』第9号)

52　〃　小山剛「千葉県市原郡戸田村馬立遺蹟発掘調査略報」(『若木考古』第18・19号)

53　〃　大川清「千葉県印旛郡阿蘇村栗谷古墳」(『古代』第11号)

54　〃　玉口時雄「千葉県竜角寺古墳調査概報」(『古代』第12号)

55　昭和29年　木村勇「千葉県蕪木古墳群中第三号第五号墳発掘調査日誌抄(上)」(『日本大学考古学通信』創刊号)

56　〃　玉口時雄・大川清「上総上瀑村打岡壹の古墳」(『古代』第13号)

57　〃　木村勇「千葉県蕪木古墳群発掘調査日誌抄(下)」(『日本大学考古学通信』第2号)

58　〃　大場磐雄「千葉県君津郡下郡古墳」樋口清之「千葉県東葛飾郡天神台古墳群」(『日本考古学年報』2)

59　〃　滝口宏『安房勝山田子台遺跡』

60　〃　君塚文雄「安房郡における横穴古墳群の分布とその類型学的研究」(『房総地理』5)

61　昭和30年　平野元三郎・滝口宏「千葉県木更津市金鈴塚古墳」(『日本考古学年報』3)

62　〃　木村東一郎「不動塚附近の地形雑感」高杉洋二郎「千葉県成東町板附古墳群中西ノ台前方後円墳並に陪家発掘日誌抄」(『日本大学考古学通信』第3号)

63　〃　渡辺包夫・実藤遠「上総大多喜町高谷の古墳」(『古代』第14・15合併号)

64　〃　藤崎武仁「天王塚について」山田巌「上代印旛における船形古墳群」(『成田史談』創刊号)
65　〃　軽部慈恩「千葉県山武郡板附不動塚古墳」玉口時雄「千葉県君津郡西谷古墳」武田宗久「千葉県千葉市荒久古墳」(『日本考古学年報』4)
66　〃　牧野誠「浪花の横穴古墳について」(『房総史学』1巻1号)
67　〃　川戸彰「再び山武郡の古墳について(その1・その2)」(『房総史学5・6号)
68　昭和31年　鈴木喜久二・中村繁治「千葉県芝山古墳群殿塚第7号墳発掘略報」金子浩昌「千葉県香取郡東庄町の石棺調査」滝口宏・玉口時雄・大川清「千葉県芝山古墳群調査速報」(『古代』第19・20合併号)
69　〃　坂詰秀一「千葉県君津郡鹿島における陰刻原始絵画を有する横穴」(『考古学雑誌』第41巻第4号)
70　〃　金谷克己「埴輪の配置(4)」(『若木考古』第42号)
71　〃　小林秀雄・佐藤俊雄「芝山古墳群小池第1号墳」(『古代』第21・22合併号)
72　〃　坂詰秀一「千葉県君津郡大貫における横穴群の調査略報」(『銅鐸』12)
73　昭和32年　軽部慈恩「千葉県蕪木第五号墳出土の珍種金銅具について」(『日本大学考古学通信』第4号)
74　〃　軽部慈恩「千葉県山武郡朝日ノ岡古墳」玉口時雄「千葉県印旛郡竜角寺古墳」滝口宏「千葉県夷隅郡大多喜台古墳」樋口清之「千葉県市原郡馬立古墳群」(『日本考古学年報』5)
75　〃　川戸彰「千葉県山武町埴谷古墳群調査(概報)」(『上代文化』第27輯)
76　〃　軽部慈恩「千葉県山武郡大堤権現塚前方後円墳」(『古代』第25・26合併号)
77　〃　大野延太郎「上総国横穴調査」(『東京人類学会雑誌』第165号)
78　〃　下津谷達男「千葉県野田市川間香取原の2古墳」(『日本考古学協会第20回総会研究発表要旨』)
79　昭和33年　高橋三男「東上総源六谷横穴群について」(『古代』第27号)
80　〃　樋口清之「千葉県東葛飾郡手賀村天神塚古墳」軽部慈恩「千葉県山武郡成東町板附西ノ台古墳」早稲田大学考古学研究室「千葉県夷隅郡大多喜町高谷古墳」(『日本考古学年報』7)
81　〃　酒梨満「船塚古墳と前方後円墳について」(『成田史談』第4号)
82　〃　市毛勲「所謂「朱」の種類について—用語の統一を中心として—」(『金鈴』8)
83　昭和34年　石橋謙次「千葉県神崎町古墳の概要」(『古代』第31号)
84　〃　高橋源一郎「船橋市内古墳時代遺跡の分布」(『船橋市史』前篇)

85　〃　松裏善亮「姫宮古墳発掘報告」(『佐倉地方文化』12)

86　〃　吉田章一郎・甘粕健「千葉県東葛飾郡我孫子町白山古墳の発掘」(『考古学雑誌』第44巻第4号)

87　〃　山田巌「浅間台古墳」(『成田史談』第5号)

88　〃　大場磐雄・小出義治他『松戸河原塚古墳』

89　〃　金子浩昌・中村恵次・市毛勲「千葉県東葛飾郡沼南村片山古墳群の調査」(『古代』第33号)

90　昭和35年　「成田市の古墳，印旛手賀沼干拓地調査」(『成田史談』第6号)

91　〃　丸子亘「千葉県八日市場市塚原古墳群の調査」(『日本考古学協会研究発表要旨』26)

92　〃　丸子亘「千葉県八日市場市塚原における前方後円墳の調査」(予報)(『立正大学史学会』創立35周年記念史学論文集)

93　〃　坂詰秀一「千葉県塚原古墳群の調査」(『古代文化』第4巻第3号)

94　昭和36年　清水潤三「千葉県香取郡干潟町長熊古墳」玉口時雄「千葉県山武郡芝山古墳群」(『日本考古学年報』9)

95　〃　大野政治・江森正義『成田市の古墳群』

96　〃　大場磐雄・寺村光晴「上総市原古墳群の調査」(『国学院雑誌』第62巻第9号)

97　〃　松戸市誌編纂委員会「古墳時代の松戸」(『松戸市史』上巻)

98　〃　中村恵次・市毛勲「千葉市中原古墳群調査報告」(『古代』第37号)

99　〃　武田宗久「七廻塚古墳出土品」「荒久古墳」「中原古墳出土人物埴輪」(『千葉市の文化財』)

100　〃　大場磐雄・寺村光晴「上総市原古墳群の調査」(『市原町文化財叢書』第2輯)

101　〃　滝口宏・金子浩昌他『印旛手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』(本編)

102　昭和37年　吉田章一郎「千葉県東葛飾郡高野山第1号墳」「千葉県東葛飾郡我孫子町白山古墳」平野元三郎「千葉県佐倉市馬渡姫宮古墳」大塚初重「千葉県香取郡正徳院古墳」武田宗久「七廻塚古墳」(『日本考古学年報』11)

103　〃　坂詰秀一「横穴式古墳の下限の問題」(『歴史考古』7)

104　昭和38年　清水潤三「漆塗櫛一千葉県横芝町谷台出土」(『考古学雑誌』第48巻第3号)

105　〃　宍倉昭一郎他「千葉県芝山町山田古墳群調査報告」(『金鈴』17)

106　〃　滝口宏「千葉県夷隅郡打岡台古墳・横山古墳」武田宗久「千葉県君津郡岩瀬横穴古墳」軽部慈恩「千葉県山武郡蕪木第5号墳」(『日本考古学年報』6)

107　〃　大場磐雄・甘粕健「千葉県市原市姉ヶ崎町山王山古墳出土の環頭大刀」(『考

古学雑誌』第49巻第２号）
108　〃　江沢中葉「夷隅郡引田峯越台遺蹟調査概報」（『総南文化』第１号）
109　〃　『千葉県史料　原始古代編　安房国』
110　〃　市毛勲「東国における墳丘裾に内部施設を有する古墳について」（『古代』第41号）
111　〃　中村恵次　「南総町江子田瓢箪塚古墳の調査」大場磐雄他「市原市姉崎山王古墳調査」（『日本考古学協会研究発表要旨』38）
112　〃　岩崎卓也「竹ケ花古墳」（『松戸市文化財調査報告』第１集）
113　〃　滝口宏・久地岡榛雄『はにわ』
114　〃　甘粕健「内裏塚古墳群の歴史的意義」（『考古学研究』第10巻第３号）
115　昭和39年　桐原健「上総金鈴塚出土の巴形飾金具」中村恵次「千葉県養老川流域の古墳群についての一考察—市原郡南総町江子田瓢箪塚古墳を中心として」（『古代』巻42・43合併号）
116　〃　中村恵次「千葉県における後期古墳—とくに群集墳の分布・内部施設被葬者について」（『金鈴』18）
117　〃　滝口宏「君津郡富津町飯野古墳群」大場磐雄他「市原市姉崎山王山古墳」下津谷達男「流山町東深井古墳」武田宗久「南総町江子田瓢箪塚古墳」滝口宏「市原市西広モチ塚古墳」（『千葉県遺跡調査報告書』１）
118　〃　平野元三郎他「上総土気舟塚古墳の調査」（『日本考古学協会研究発表要旨』39）
119　〃　川戸彰「山武郡の古墳について」（『房総史学』１巻２号）
120　〃　渡辺包夫「上瀑部落出土の漢式古鏡メモ」（『総南文化』第２号）
121　昭和40年　浜名徳永・市毛勲「鮭の埴輪」（『古代』第44号）
122　〃　甘粕健「千葉県東葛飾郡日立１号墳」（『日本考古学年報』13）
123　〃　茂木雅博「成田市大山古墳調査報告」（『古代学研究』41）
124　〃　丸子亘「千葉県小見川町城山古墳の調査」（『立正大学博物館学講座研究報告』２）
125　〃　丸子亘「千葉県小見川町城山古墳の調査」（『立正大学文学部論叢』22）
126　〃　平野元三郎「上総国周准郡の遺跡」（『古美術』）
127　〃　武田宗久「狐塚古墳」（『千葉県遺跡調査報告書』２）
128　〃　下津谷達男「堤台遺跡」平野元三郎「千葉県竜角寺古墳群の調査」（『日本考古学協会研究発表要旨』40）
129　昭和41年　滝口宏「富津町稲荷塚古墳」（『千葉県遺跡調査報告書』３）
130　〃　『茂原市史』

131　〃　村井嵓雄「千葉県木更津市大塚山古墳出土遺物の研究」(『MUSEUM』第198号)
132　〃　岩崎卓也「千葉県松戸市竹ヶ花古墳」大場磐雄・寺村光晴「千葉県市原市向原古墳群」川戸彰「千葉県東金市家之子51号墳」(『日本考古学年報』14)
133　〃　藤岡一雄「千葉県海老内台遺跡群の調査—古墳」(『下総考古学』2)
134　〃　中村慎二「城山第7号円墳の調査」丸子亘・渡辺智信「城山第5号前方後円墳第1次調査概報」(『海上文化』1)
135　〃　坂井利明「千葉県芝山町高田第1号墳発掘調査概報」(『塔影』第1集)
136　昭和42年　堀田啓一「冠・垂耳飾の出土した古墳と大和政権」(『古代学研究』49)
137　〃　藤岡一雄「鷺沼古墳」(『習志野市文化財調査報告書』第1輯)
138　〃　平野元三郎・滝口宏「千葉県君津郡絹横穴」下津谷達男「千葉県東葛飾郡東深井古墳」(『日本考古学年報』15)
139　〃　市毛勲・杉山晋作「山木古墳」中村恵次他「福増古墳群」中村恵次「荻作古墳群」(『市原市文化財調査報告書』第3冊)
140　〃　中村恵次・市毛勲「富津古墳群八丁塚古墳調査報告」平野元三郎・滝口宏「大同元年在銘横穴」(『古代』第49・50合併号)
141　〃　中村恵次「千葉県山武郡土気町舟塚古墳の調査」(『古代』第48号)
142　〃　杉山晋作「宝米六号墳石室調査報告」(『金鈴』20号)
143　〃　滝口宏他『千葉県史料原始古代編上総国』
144　昭和43年　中村恵次他『清見台古墳群発掘調査報告』
145　〃　対島郁夫「館山市坂井翁作古墳調査報告」(『館山市文化財保護協会会報』1)
146　〃　丸子亘「千葉県香取郡城山第1号古墳」平野元三郎「千葉県市原市モチ塚古墳」中村恵次「千葉県市原市富士見塚古墳」(『日本考古学年報』16)
147　〃　茂木雅博「古式古墳墳丘構築論—関東地方大型古墳封土の発生について」(『古代学研究』52)
148　〃　中村恵次他「海保古墳群」(『市原市埋蔵文化財調査報告』4)
149　〃　上智大学史学会・同史学研究会『東上総の社会と文化』(『上智大学史学会研究報告』2)
150　〃　野口博芳「牛久古墳にまつわる話」(『南総郷土文化研究会誌』6号)
151　昭和44年　中村恵次・市毛勲「千葉県山武郡土気舟塚古墳」(『日本考古学年報』17)
152　〃　平沢一久「遺骸埋葬施設位置の特異な高塚墳墓についての一考察」(『鎌田博士還暦記念歴史学論叢』)
153　〃　大野政治「印旛の国造たち」(『成田史談』第15号)

154　〃　竹石健二「特異な位置に内部主体を有する古墳について」(『史叢』第12・13合併号)

155　〃　茂木雅博「古式古墳の性格—特に前方後円墳を中心に」(『古代学研究』56)

156　〃　下津谷達男『流山市東深井古墳群—昭和43年度調査概報』

157　〃　東京大学考古学研究室『我孫子古墳群』

158　〃　武田宗久「上総国女坂第1号方形墳」(『南総郷土文化研究会叢書』9)

159　〃　石井昭「牛久古墳群発掘概報」(『市原高校郷土研究クラブ活動報告』)

160　〃　大塚初重『千葉市生実町大覚寺山古墳の測量結果について』

161　〃　杉山晋作「所謂「変則的古墳」の分類について」(『茨城考古学』第2号)

162　昭和45年　甘粕健「千葉県我孫子町水神山古墳」甘粕健「千葉県我孫子町日立精機2号墳」吉田章一郎「千葉県長生郡一宮町待山古墳」(『日本考古学年報』18)

163　〃　石井則孝他『原一号墳発掘調査概報』

164　〃　村田一男『佐倉市大篠塚古墳群埋蔵文化財調査報告』

165　〃　栗本佳弘「印旛郡富里村日吉倉遺跡」(『東関東自動車道(千葉成田線)関係埋蔵文化財発掘調査報告書』)

166　〃　千葉県教育庁文化課『龍角寺、芝山を含む北総地域の埋蔵文化財とその保護対策について』

167　〃　大木衛『銚子市赤塚古墳調査報告書』

168　〃　丸子亘『姉ヶ崎台遺跡』

169　〃　石井昭「牛久古墳群発掘概報」(『南総町郷土文化研究会会誌』7号)

170　〃　関根孝夫・木下正史「松戸市稔台富山遺跡」(『考古学雑誌』第55巻第4号)

171　昭和46年　高橋良治「松戸の遺跡3　河原塚遺跡」(『かみしき』4)

172　〃　菅谷文則「横穴式石室の内部—天蓋と垂帳」(『古代学研究』59)

173　〃　大塚初重他『弁天山古墳復元整備基礎調査報告書』

174　〃　市毛勲「千葉県山武郡成東町経僧塚古墳の調査」(『史観』83)

175　〃　中村恵次「千葉県市原市福増古墳群」吉田章一郎「千葉県長南町地引横穴群」市毛勲「千葉県市原市山木古墳」中村恵次「千葉県市原市荻作古墳群1号墳」尾崎喜左雄「千葉県習志野市鷺沼古墳附城跡」市毛勲「千葉県山武郡芝山町小池大塚」川戸彰「千葉県山武郡麻生新田カブト塚古墳」(『日本考古学年報』19)

176　〃　市毛勲・椙山林継・多宇邦雄・沼沢豊「千葉県香取郡下総町大日山古墳」(『昭和45年度千葉県埋蔵文化財抄報』2)

177　〃　茂木雅博「平塚船戸古墳」(『白井町文化財紀要』1)

178　〃　丸子亘「野中横穴群遺跡」(『立正大学博物館学講座研究小報』6)

179　〃　岩立喜一『佐原市岩ヶ崎野中横穴群発掘調査報告書』
180　昭和47年　平野元三郎・野中徹「旧上総町の埋蔵文化財」(『千葉文華』5)
181　〃　安藤鴻基他『千葉県香取郡神崎町舟塚原古墳第1次発掘調査概報』
182　〃　椙山林継「祭と葬の分化―石製模造遺物を中心として」(『国学院大学日本文化研究所紀要』第29輯)
183　〃　湯浅泰之祐「松戸の遺跡7　大橋向山遺跡」(『かみしき』8)
184　〃　対馬郁夫「県下初の七鈴鏡」久保木良「神道山古墳」(『千葉県の文化』1)
185　〃　斉藤吉弘「南総中遺跡発掘調査概報」(『先史』8)
186　〃　高橋在久・渡辺智信「湊川流域の横穴群調査概要」(『千葉文華』6)
187　〃　増田精一他『牛久Ⅲ号墳調査抄報』
188　〃　熊野正也「真木ノ内船戸古墳―発掘調査概報」(『白井町文化財紀要』2)
189　〃　村田一男「八千代市神野芝山2号墳発掘調査概要」(『史学報』第3号)
190　〃　下津谷達男・伊藤和彦・増田逸朗『東深井遺跡調査報告書』
191　〃　古宮隆信「戸張遺跡」「山田台遺跡」(『柏の文化財』)
192　〃　野口博芳「江子田南総中遺跡方形周溝墓と甕棺について」(『市原地方史研究』8)
193　〃　坂井利明他『にとな―古墳群とその集落址の調査―』
194　〃　杉山晋作他『古墳時代研究Ⅰ―千葉県市原市小田部古墳の調査―』
195　〃　杉山晋作「八重原古墳群(四ツ塚古墳群)」(『日本考古学年報』20)
196　〃　渋谷興平「銚子市柴崎台遺跡の概報」(『史陵』3)
197　〃　渋谷興平『扶喰古墳の研究』
198　〃　五代吉彦他『武田古墳群発掘調査概報』
199　〃　杉山晋作他『羽計古墳群』
200　〃　吉田章一郎「千葉県長生郡一宮町待山古墳」(『日本考古学年報18)
201　〃　矢戸三男・大村祐「片野横穴群」池上悟「八日市場の横穴」豊田佳伸・越川敏夫「東庄町夏目横穴群」(『横穴の研究』)
202　〃　渋谷興平『横穴の研究・利根川流域の調査』
203　〃　橋口定志「千葉県夷隅地区の横穴について」(『物質文化』19)
204　〃　二宮栄学「米沢横穴群調査概報」(『市原地方史研究』7)
205　〃　佐藤克巳「東上総一宮川流域の特徴ある横穴について」(『ふさ』第2号)
206　〃　栗本佳弘『椎名崎古墳群発掘調査概要』
207　〃　杉山晋作「切石積箱状内部施設の名称について――山田1・2号墳に関して――」(『ふさ』創刊号)
208　〃　米内邦雄・宮入和博『千代田遺跡』

209　昭和48年　栗本佳弘「千葉市椎名崎古墳群」「千葉市加曽利町聖人塚古墳」杉山晋作「市原市愛宕山西国吉横穴群」熊野正也「真木ノ内船戸古墳」野中徹「君津市大和田花里山横穴群」市毛勲「千葉県香取郡神崎町舟塚原古墳(第1次)」杉山晋作「千葉県香取郡東庄町婆里古墳」(『日本考古学年報』24)
210　〃　杉山晋作「千葉県木更津市手古塚古墳の調査速報」市毛勲「変則的古墳覚書」(『古代』第56号)
211　〃　川戸彰「郷土史研究の先覚小熊吉蔵翁の事蹟」(『千葉文華』7)
212　〃　天野努・斉木勝『袖ケ浦町山野貝塚　付木更津市下部多山供養塚』
213　〃　種田斉吾「兼坂遺跡」(『京葉』)
214　〃　轟俊二郎『埴輪研究』第1冊
215　〃　市毛勲他『下総鶴塚古墳の調査概報』
216　〃　米内邦雄他『大崎台遺跡』
217　〃　柿沼修平「星久喜遺跡」三森俊彦「聖人塚古墳」古内茂「高品第2遺跡」(『京葉』)
218　〃　佐藤武雄「東葛地方における古墳の分布と埴輪の存在について」(『ふさ』第4号)
219　〃　渋谷興平「利根川流域における横穴古墳の様相と予察」(『史陵』2)
220　〃　「大覚寺山古墳」(『改訂・増補千葉県文化財総覧』)
221　〃　中村恵次・沼沢豊「前方後方墳の一考察」(『古代』第55号)
222　〃　藤下昌信・宮入和博「赤坂・瓢塚古墳群第13号墳発掘調査概報」(『成田市の文化財』第5輯)
223　〃　大野政治他『成田市文化財分布調査報告書』
224　〃　平岡和夫「山田古墳群24号墳調査」(『郷土』)
225　昭和49年　野中徹『馬門古墳発掘調査報告』
226　〃　杉山晋作「木更津市「塚の越古墳」出土遺物」(『MUSEUMちば』第4号)
227　〃　安藤鴻基「千葉県木更津市畑沢埴輪窯址の調査速報」杉山晋作「変則的古墳の解釈(その1)—前方後円墳の平面企画方法を通して—」(『古代』第57号)
228　〃　野中徹「東京湾東沿岸における横穴墳について」中村恵次「房総半島における横穴式石室—とくに複室構造の石室について—」(『史館』第2号)
229　〃　安藤鴻基「丸塚古墳」(『日本考古学年報』27)
230　〃　渋谷興平「中峠城跡内での古墳調査」(『千葉県我孫子市中峠城跡調査報告書』)

231　〃　原田道雄「横穴式複室石室に関する覚え書—中村恵次氏論文を読んで—」熊野正也「特殊な器台形土器について（1）」（『史館』第3号）
232　〃　市毛勲・多宇邦雄「千葉県小見川町城山発見石棺群と城山六号墳の調査」『古代』第58号）
233　〃　杉山晋作「あらたに発見された姉崎二子塚古墳の鏡」中村恵次「房総半島における変形石室—L字形、T字形石室とその周辺—」山田友治「房総における古式須恵器とその性格について」（『史館』第4号）
234　〃　三森俊彦・古内茂『市原市大厩遺跡』
235　〃　斉木勝他『菊間遺跡』
236　〃　天野努他『八千代市村上遺跡群』
237　〃　古宮隆信『柏市戸張遺跡第三次発掘報告書』
238　〃　武田宗久他『千葉市史』第1巻
239　〃　倉田芳郎「南総中校庭遺跡」（『日本考古学年報』25）
240　〃　滝口宏他『東間部多古墳群—上総国分寺台遺跡調査報告Ⅰ—』
241　〃　野中徹「北子安堀込古墳調査概報」
242　〃　高木博彦「印西町大森上宿古墳」（『ふさ』第5・6合併号）
243　〃　村田一男他『坂並白貝古墳群66号墳・高津原横穴群・千葉県香取郡多古町遺跡調査概報』
244　〃　種田斉吾・菊池真太郎『木更津市請西遺跡群』
245　〃　小川和博・工藤英行「荒海古墳群第15号墳発掘調査報告」（『成田市の文化財』第6輯）
246　〃　桑原護「飯重新畑遺跡」「生谷境堀遺跡」（『飯重』）
247　昭和50年　椙山林継「木更津市請西遺跡の調査」（『考古学ジャーナル』No. 105）
248　〃　椙山林継他『木更津市請西遺跡—昭和49年度発掘調査概報』
249　〃　八幡一郎他『夏見大塚遺跡—夏見台地における弥生時代・奈良・平安時代集落址の調査—』
250　〃　滝口宏・市毛勲　『千葉県長生郡長南町油殿古墳群の墳丘周辺発掘調査概報』
251　〃　浜名徳永『芝山はにわ博物館研究報告1・下総小川台古墳群』
252　〃　安藤鴻基他『関向古墳発掘調査概報』
253　〃　山田友治他『千葉県長生郡睦沢村浅間山1号墳発掘調査報告書』
254　〃　本村豪章「上総・市原市菊間小学校遺跡についての一試考」（『MUSEUM』第288号）
255　〃　倉田芳郎「千葉・上ノ台遺跡の問題点」寺社下博「千葉・上ノ台遺跡第Ⅲ次調査概報」松井考宗「千葉・上ノ台遺跡第Ⅰ次調査概報」（『先史』9）

256　〃　平岡和夫・松井義郎『板附古墳群』

257　〃　杉山晋作「内裏塚古墳群の再検討――内裏塚古墳の遺物(前)――」熊野正也「南関東地方における弥生文化の研究（2）―特に房総半島における葬制について―」田中新史「5世紀における短甲出土古墳の一様相―房総出土の短甲とその古墳を中心として―」(『史館』第5号)

258　〃　池上悟「横穴墓の地域性関東（2）―房総・常陸―」(『考古学ジャーナル』No. 110)

259　〃　湯浅喜代治「松戸の遺跡13　西金楠台遺跡」(『かみしき』14)

260　〃　成田ニュータウン文化財調査班『公津原』

261　〃　杉山晋作『清水谷遺跡』

262　〃　栗本佳弘「椎名崎古墳群」(『千葉東南部ニュータウン』1)

263　〃　渋谷興平『小林古墳群遺跡』

264　〃　篠丸頼彦「小林古墳群」(『日本考古学年報』26)

265　〃　滝口宏他『遺跡日吉倉』

266　〃　伊礼正雄・熊野正也『臼井南』

267　〃　矢戸三男他『阿玉台北遺跡』

268　〃　中村恵次・沼沢豊・田中新史『古墳時代研究Ⅲ―千葉県市原市六孫王原古墳の調査―』

269　〃　『昭和48年文化財紀要　横芝町文化財総合調査報告（1）』

270　〃　『富津市遺跡等分布図』

271　〃　『袖ケ浦町文化財分布調査報告書　埋蔵文化財』

272　〃　平野元三郎他『天神台遺跡発掘調査概報』

273　〃　須田勉『諏訪台古墳調査概要』

274　昭和51年　杉山晋作「房総における古墳の変革」（前)」(『史館』第6号)

275　〃　杉山晋作「房総における古墳の変革（後)」山田友治「古式な鏡について」(『史館』第7号)

276　〃　対馬郁夫他『大竹遺跡　大竹第12号古墳調査報告書』

277　〃　千葉県教育庁文化課（『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄』報昭和49、50年)

278　〃　大塚初重他『道祖神裏古墳調査概報』

289　〃　『木更津市中尾横穴発掘調査報告』

280　〃　武田宗久「大覚寺山古墳」「へたの台古墳群」(『千葉市史』史料編1)

281　〃　中村恵次「東寺山戸張作古墳群」(『日本考古学年報』27)

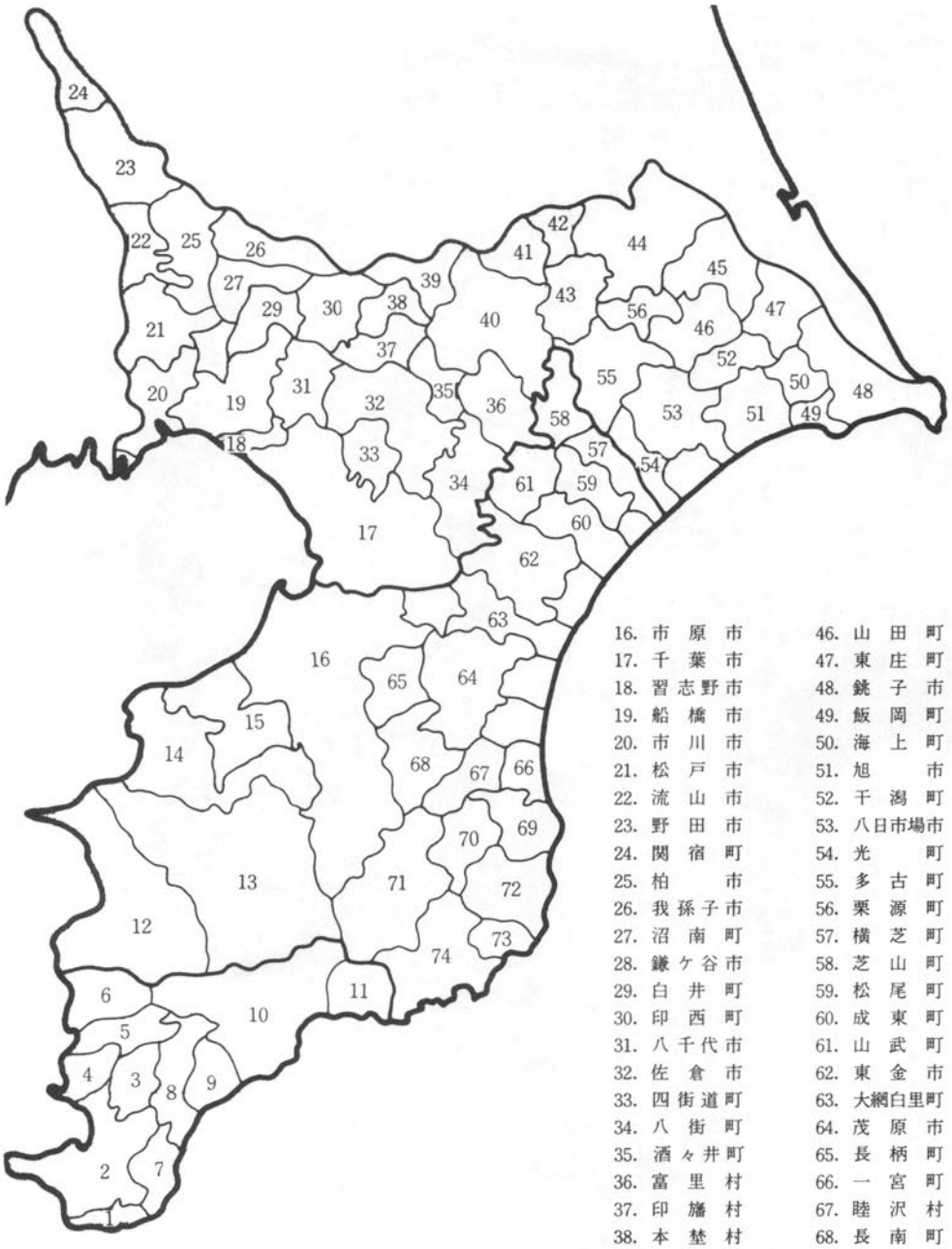
282　〃　浜名徳永『下総片野古墳群』

283　〃　菊池真太郎・豊田佳伸『千葉市誉田県立コロニー内遺跡』

284　〃　宮内庁書陵部『古鏡目録』
285　〃　杉山晋作「房総の埴輪（1）—九十九里地域における人物埴輪の二相—」安藤鴻基「埴輪祭祀の終焉」市毛勲「房総人物埴輪顔面の赤彩色法—人物埴輪顔面の赤彩色についてⅣ—」米田耕之助「上総山倉一号墳の人物埴輪」（『古代』第59・60合併号）
286　〃　柿沼修平他「多古台遺跡群調査概報」（『日本文化財研究所文化財調査報告』2）
287　〃　半田堅三他『上総国分寺台発掘調査概要Ⅲ』
288　〃　海野道義「石川第1号古墳発掘調査略報」内田儀久「飯塚古墳群」（『佐倉市文化財時報』）
289　〃　田中新史『南向原　上総国分寺台遺跡調査報告Ⅲ』
290　〃　半田堅三他『武士遺跡』
291　〃　米内邦雄他「志津西ノ台遺跡」（『佐倉市埋蔵文化財報告』2）
292　〃　桑原護「内野古墳群他の測量所見」（『千葉市文化財調査報告』第1集）
293　昭和52年　荒木誠・鈴木容子「木更津市請西遺跡の調査　第2報」（『考古学ジャーナル』No. 131）
294　〃　千葉県教育庁文化課（『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報』昭和47・48年）
295　〃　杉山晋作「房総の石枕（1）——市原市発見の石枕——」石井則孝「千葉県富津市出土の新羅焼土器」熊野正也「特殊な器台形土器について（2）」市毛勲「中村恵次氏遺稿に関するコメント」中村恵次「房総半島における特殊石室Ⅲ—城山6号墳石室とその周辺—」（『史館』第8号）
296　〃　大塚初重「房総の古墳分布とその特質」（『成田史談』22号）
297　〃　平岡和夫他『中津田古墳』
298　〃　沼沢豊「千葉市東寺山石神遺跡の調査」（『考古学ジャーナル』No. 133）
299　〃　野中徹他『木更津市埋蔵文化財分布調査報告書』
300　〃　田川良他『生谷』
301　〃　野中徹『岩横穴群発掘調査報告書』
302　〃　佐藤克巳『千葉県海上郡飯岡町平松岡横穴発掘調査報告』
303　〃　浜名徳永（『はにわ』図録3）
304　〃　久我春雄他『睦沢村史』
305　〃　文化庁文化財保護部『昭和51年度国保有埋蔵文化財』
306　〃　上野純司「南関東における古式土師式土器編年試論」（『史館』第9号）
307　〃　樋口清之・金子皓彦・青木豊「関東の古墳時代文化」『国学院大学考古学資料館要覧』

308　〃　椙山林継「葬送儀礼の考古学的事象―古墳における祭器具―」(『国学院雑誌』第78巻第12号)
309　〃　田中新史「市原市神門四号墳の出現とその系譜」(『古代』第63号)
310　〃　斉藤忠『長柄町史』
311　〃　栗本佳弘他『千葉東南部ニュータウン4』
312　〃　浅利幸一他『千葉市大宮町・東五郎遺跡発掘調査報告書』
313　〃　森重彰文『武石遺跡・武石館調査報告』
314　〃　椙山林継・荒木誠他『請西』
315　〃　高田博他『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ―第1次・第2次調査―』
316　〃　中村恵次・岡川宏道他『千葉市東寺山戸張作遺跡』
317　〃　三浦和信他『吉高山王遺跡』
318　〃　中村恵次他『東寺山石神遺跡』
319　昭和53年　江森正義「松戸の遺跡17　幸田貝塚」(『かみしき』18号)
320　〃　中村恵次『房総古墳論攻』
321　〃　清藤一順「星谷津1号墳」『佐倉市星谷津遺跡』
322　〃　工藤英行「古墳測量調査報告」(『成田市の文化財』第9輯)
323　〃　〃　「長田古墳群第1号墳発掘調査略報」(『成田史談』23号)
324　〃　村田一男他『千葉県香取郡多古町坂並白貝古墳群発掘調査報告』
325　〃　野中徹他『千葉県木更津市中尾横穴発掘調査報告』
326　〃　栗本佳弘「千葉市大金沢町六通1号古墳」「千葉市大金沢町六通2号古墳」「千葉市椎名崎町人形塚1号古墳」「千葉市椎名崎町2号古墳」「千葉市小金沢1号古墳」「千葉市椎名崎町狐塚1号古墳」「千葉市椎名崎町孤塚2号古墳」野中徹「君津市新御堂元秋葉台32号墳」杉山晋作「千葉市平山古墳」(『日本考古学年報』29)
327　〃　熊野正也「石田川式土器文化成立に関する一考察(前)―いわゆるS字状口縁甕形土器を中心として―」石井則孝「富津市上飯野「野々間古墳」の出土遺物について」(『史館』第10号)
328　〃　渋谷興平「銚子市小舟木発見の横穴」(『史陵』No3」
329　〃　沼沢豊・深沢克友・森尚登『佐倉市飯合作遺跡』
330　〃　杉山晋作・瀬戸久夫『千葉市築地台貝塚・平山古墳』
331　〃　鈴木道之助他『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』
332　〃　千葉県教育庁文化課(『千葉県埋蔵文化財調査抄報』昭和50その2・51年度)
〔追補〕
333　昭和37年　中村恵次「下総における後期古墳」(『民衆史研究』1)

334　昭和41年　中村恵次「上総・下総の接壌地帯における後期古墳の問題」(『考古学ジャーナル』2)
335　昭和42年　中村恵次「発生期古墳の地域相――東国――」(『歴史教育』3月号)
336　昭和43年　中村恵次「東国における古墳発生の歴史的意義」(『日本古代史の諸問題』)
337　昭和48年　中村恵次「房総の装飾古墳」(『考古学ジャーナル』No. 91)
338　昭和32年　万年一「光勝寺の石枕について」(『佐倉地方文化』10)
339　昭和46年　竹内理三編『市川市史』第一巻
340　昭和47年　杉山晋作他『千葉県市原市西国吉横穴群』
341　昭和47年　高崎繁雄『木更津市史』
342　昭和48年　千葉県教育庁編『改訂増補千葉県文化財総覧』
343　昭和48年　市原市教育委員会編『市原のあゆみ』
344　昭和48年　岡田茂弘・椙山林継他『大満横穴群調査報告』(『富津市文化財調査報告書』1)
345　昭和50年　大塚初重「千葉県岩屋古墳の再検討」(『駿台史学』第37号)
346　昭和51年　小林三郎・熊野正也編『法皇塚古墳』(『市立市川博物館研究調査報告』第3冊)

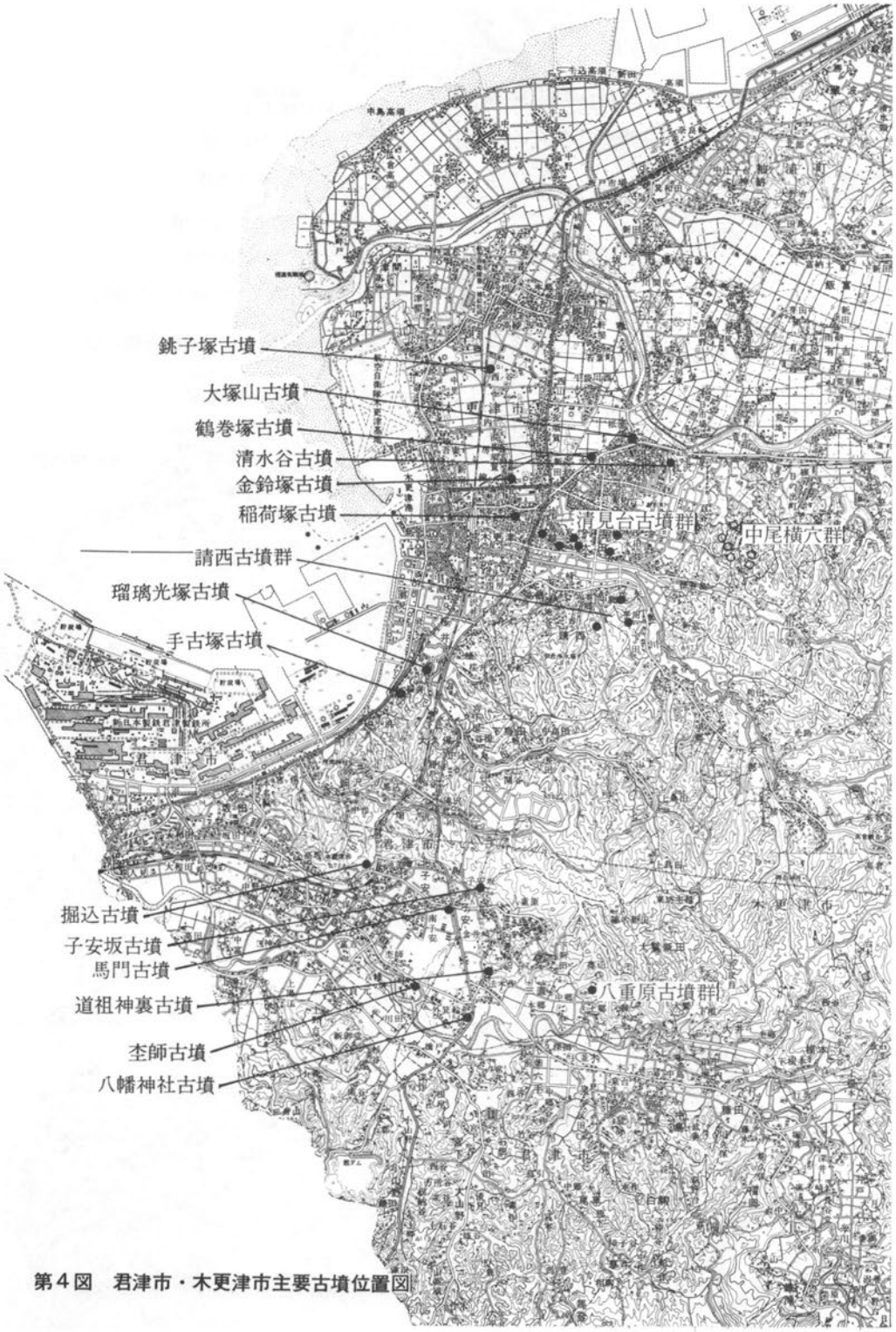


第1図　市町村位置図

1. 白浜町
2. 館山市
3. 三芳村
4. 富浦町
5. 富山町
6. 鋸南町
7. 千倉町
8. 丸山町
9. 和田町
10. 鴨川市
11. 天津小湊町
12. 富津市
13. 君津市
14. 木更津市
15. 袖ケ浦町
16. 市原市
17. 千葉市
18. 習志野市
19. 船橋市
20. 市川市
21. 松戸市
22. 流山市
23. 野田市
24. 関宿町
25. 柏市
26. 我孫子市
27. 沼南町
28. 鎌ケ谷市
29. 白井町
30. 印西町
31. 八千代市
32. 佐倉市
33. 四街道町
34. 八街町
35. 酒々井町
36. 富里村
37. 印旛村
38. 本埜村
39. 栄町
40. 成田市
41. 下総町
42. 神崎町
43. 大栄町
44. 佐原市
45. 小見川町
46. 山田町
47. 東庄町
48. 銚子市
49. 飯岡町
50. 海上町
51. 旭市
52. 干潟町
53. 八日市場市
54. 光町
55. 多古町
56. 栗源町
57. 横芝町
58. 芝山町
59. 松尾町
60. 成東町
61. 山武町
62. 東金市
63. 大網白里町
64. 茂原市
65. 長柄町
66. 一宮町
67. 睦沢村
68. 長南町
69. 岬町
70. 夷隅町
71. 大多喜町
72. 大原町
73. 御宿町
74. 勝浦市

第2図　館山市主要古墳位置図

第３図　富津市主要古墳位置図



第４図　君津市・木更津市主要古墳位置図

第5図　市原市主要古墳位置図

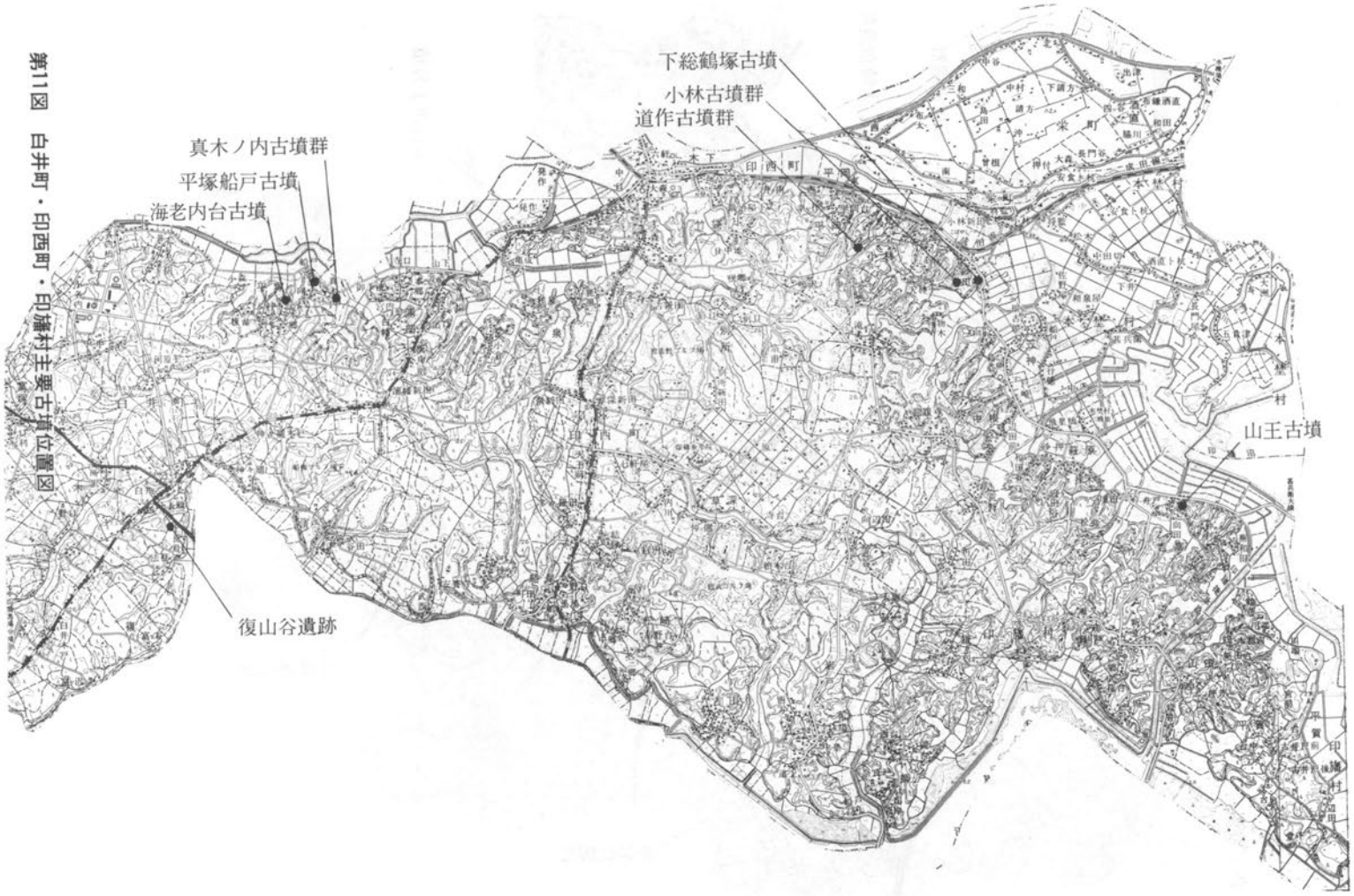
第６図　千葉市主要古墳位置図

第7図　習志野市・船橋市・八千代市主要古墳位置図

第８図　市川市・松戸市主要古墳位置図

第９図　流山市・野田市・柏市主要古墳位置図

第10図　我孫子市・沼南町主要古墳位置図



第11図　白井町・印西町・印旛村主要古墳位置図

第12図　佐倉市・四街道町主要古墳位置図

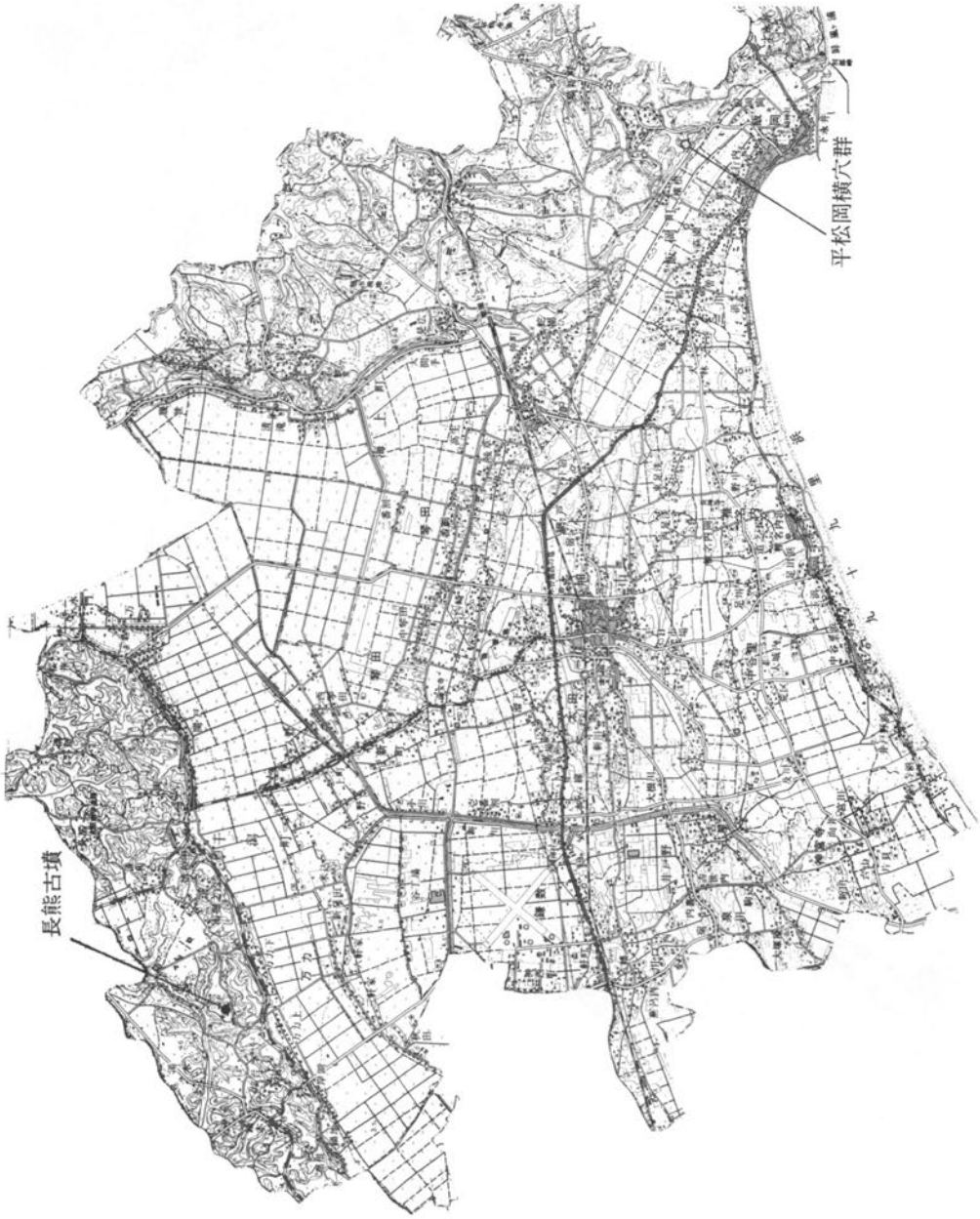
第13図　酒々井町・富里村主要古墳位置図

第14図　栄町・成田市主要古墳位置図

第15図　下総町・神崎町・大栄町・佐倉市主要古墳位置図

第16図　小見川町・東庄町主要古墳位置図

第17図　銚子市主要古墳位置図



第18図　飯岡町・干潟町主要古墳位置図

第19図　八日市場市・光町・多古町主要古墳位置図

第20図　横芝町・芝山町・松尾町・成東町・山武町主要古墳位置図

第21図　東金町・大網白里町主要古墳位置図

第22図　茂原市・長柄町・一宮町・睦沢村・長南町主要古墳位置図

第23図　大多喜町周辺主要古墳位置図

Ⅲ　古　墳　概　要

（所在地の次の番号は文献番号）

Ⅰ　（古墳・周溝遺構）

〔2.　館山市〕

相の沢古墳群　　館山市八幡　（332）

標高120ｍをはかる丘陵山頂部に所在。古墳２基の調査。詳細な報告はされていない。

昭和51年、東洋大学（玉口時雄）調査。直刀が出土。砂利採取に伴い消滅。遺物は県立安房博物館保管。

三ツ塚古墳群　　館山市神余字大久保（294）

神余川中流の北岸に突出した丘陵尾根上に円墳３基が所在。３基とも詳細は不明だが、１号墳は径９～10m、高さ1.25m、２、３号墳は径19～23m、高さ2.5ｍの円墳とされる。３号墳には幅1.6m、深さ0.7mの周堀がめぐる。

昭和49年、丸子亘調査。砂利採集に伴い消滅。

〔10.　鴨川市〕

広場１号墳　　鴨川市広場（25）

加茂川の形成する沖積平野部に所在し、近くには２号墳が一部崩壊しているが現存。墳形及び内部施設の詳細は不明。石棺が検出され、砂岩の刳り抜き式石棺で、内法長2.2ｍ、幅0.71ｍ、深さ0.7ｍをはかる。蓋石はカマボコ形を呈し、縄かけ突起が８か所造り出される。直刀、鉄鏃が出土。

大正年間に発掘された。発掘者は不明。古墳は湮滅。石棺は県立上総博物館保管。

〔12.　富津市〕

内裏塚古墳　　富津市二間塚（13・14・24・114・257）

南南西に前方部をむける前方後円墳。楯形周堀をもつ。墳丘長144ｍ、後円部径81m、同高さ12m、前方部幅90m、同高さ11m、周堀は幅９～10m、くびれ部で20mをはかる。墳丘平面形態は、履仲天皇陵古墳と酷以し、仲津姫陵古墳と１対２の比で相似形をなすとの甘粕健の指摘がある。外部施設は円筒埴輪、形象埴輪、葺石が確認されている。葺石は坂井利明の測量調

査で後円部、前方部ともに砂岩質の葺石を確認。埴輪列は同じく坂井の調査によれば、前方部西側調査において上中下３段の埴輪列の存在が確認された。下段は裾から３ｍの位置に樹立され、その数は下段23本、中段25本、上段30本を数え、後円部もめぐるとすれば各段150本、総数500本近い埴輪が存在することになる。なお円筒埴輪以外に家形埴輪、朝顔形埴輪を確認。内部施設は後円部主軸線をはさみ３ｍの間隔をもってたがいに主軸線に平行するように構築された二基の竪穴式石室。砂岩の切石で四壁を築き、同じく天井石も砂岩で構架。床面は数寸の砂を敷きさらにその上に挙大の円石を二重三重に敷き詰める。石室の規模は、東石室は長さ5.75m、底部幅北端で0.75m、南端で0.88mで、壁面は南端に近づくほど持送り状を呈し、壁高も北端0.7m、南端1.06mと南端ほど高さを増す。西石室は長さ7.5m、中央部幅1.0m、高さ1.18mをはかり、若干内傾し、幅も南北両端で若干狭い。東石室の主軸線上に北半部に１体、南半部に１体、共に頭位を北にし仰臥伸展葬で埋葬されており、北人骨に伴う副葬品として頭上の釿３、小刀１、角棒１、鎌１と、左右に置かれた直刀４、剣１、また南人骨に伴う副葬品としては、左右に置かれた直刀１、剣１があった。西石室では、北部に鉄鏃、鳴鏑、鉄斧等の小形品を置き、中央部に、鏡、鉄製品、筒形骨製品等の遺物を、南部に、直刀、剣、鎗等の大形品を配しており、遺骸埋葬は１体と考えられる。出土遺物の詳しい数量等は、近々杉山晋作によって発表される予定である。築造年代は５世紀の中葉と考えられる。

明治39年10月、柴田常恵、小熊吉蔵らの内部施設を中心とした調査をはじめとし、その後、甘粕健、滝口宏、坂井利明、杉山晋作、大塚初重らの確認調査等が行なわれた。

九条塚古墳　　富津市下飯野（24・114）

平地に立地する前方後円墳で前方部が南面する。墳丘長102.5m、後円部径57m、同高さ7.2m、前方部幅73、同高さ7.2mをはかる。楯形の周堀がめぐり、後円部で20m、くびれ部で37m、前方部前端で13m程の幅をもつ。内部施設は後円部中央、主軸に直交し構築された長さ6.9m、幅1.2～1.6mの竪穴式石室で、側壁は砂岩乱石積ですきまを粘土で補強し、床面は拳大の河原石を敷き詰める。室内より直刀１、剣１、鎗１、鉄鏃若干、雲珠破片、轡、帯金具、切子玉、ガラス玉、銀製玉、ホウズキ玉、銀張耳環等が出土。また前方部頂から須恵器の高杯、平瓶、瓮が出土。埴輪片もみられた。

明治44年、坪井正五郎、柴田常恵調査。

三条塚古墳　　富津市下飯野（24・114）

江戸時代の保科氏陣屋跡内に立地する前方後円墳で、墳丘長121.2m、後円部径62、同高さ７ｍ、前方部幅93m、同高さ８ｍをはかる。周堀が認められるというが正確な形状及び数値は不詳。出土遺物は、剣、直刀、鎧、須恵器が記録されている。

稲荷山古墳　　富津市青木（24・114）

内裏塚古墳群の南西部に位置する。低地に立地する前方後円墳で、墳丘長120m、後円部径52m、同高さ10m、前方部幅84m、同高さ10mをはかる。楯形の周堀がめぐり、後円部で22m、前方部で17mの幅をもつ。後円部の周堀外側に一部幅11mの周堀らしきものが認められ、二重周堀の可能性が考えられる。後円部墳頂近くに器材埴輪、円筒埴輪列の所在を確認。

姫塚古墳　　富津市青木（24・143）

稲荷山古墳の南300mの畑中に位置する。墳丘長55m程の前方後円墳で、片袖式横穴式石室を有する。東南東に開口し長さ4.5m、幅2m程をはかる。天井石11枚が存する。床面には砂岩が敷き詰められる。人骨5体分のほか、直刀7、鉄鏃数十、金銅製耳環1、馬具類、須恵器の横瓶、高杯等が出土。現在玄室を残すのみである。

昭和13年、飯野小学校長小熊吉蔵調査。

わらび塚（稲荷塚）古墳　富津市二間塚（129）

三条塚のすぐ北，割見塚の南西約66mに位置する前方後円墳。破壊が著しいが、推定墳丘長58m、後円部径26m、前方部幅26m、高さは前後丘とも4mをはかる。周堀が全周する。後円部中央に片袖式石室をもつ。全長10m、玄室長7.7m、幅1.5m、羨道長3.7m、幅0.9mをはかる。床面は黄褐色土上に貝殻が2～3cmの厚さで敷き詰められる。遺物は、釧1、耳環4、尾錠5、銀製剣形飾具1、金銅鞍破片1、鞍前輪片1、冠破片1、鉄鏃3、貝製飾4、須恵器（壺6、高杯2、平瓶1）、土師器3、釘若干、棗玉4、丸玉2、小玉2、銀玉2、金銅玉2、人骨12体以上が確認された。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。

西原古墳　　富津市大堀（25）

平地に位置する前方後円墳で、墳丘長63m、後円部径29m、同高さ3.7m、前方部幅27m、同高さ2.4mをはかり、前方部が南面する。内部施設は全長11m、底幅1.1m～1.8m南東に向ってくびれ部に開口する無袖式横穴式石室と推定される。壁面は砂岩を積み上げ多少持送り状を呈し、天井部は砂岩板石20枚で覆われ、粘土で目張りしたうえ、さらに上方30mまで粘土まじりの小礫で被覆する。床面にも砂岩を敷く。石室内より人骨8体分、直刀片、管玉19数個、鉄鏃10数本、ガラス玉数十、馬具、金銅張鏡板付轡、雲珠、金環、帯金具、鹿角装環状品、鹿角装柱型製品、須恵器の提瓶2、甕1、杯3、高杯13等が出土。

昭和2年破壊に先だち内部施設のみを柴田常恵調査。

白姫塚古墳　　富津市下飯野（24）

内裏塚の西200mにある径29m、高さ5m程の円墳。出土遺物は『飯野村誌』によれば、金張鳥形柄頭剣1、銀張鳥形柄頭剣2、金銅製鋺1、金銅製耳環1、鎧1、須恵器の横瓶、平瓶、高杯、長頸壺等がある。

明治26年に調査。

割見塚古墳　　富津市二間塚（143）

截頭正方錐体の墳丘をもつ1辺45m、高さ3.6mをはかる方墳で、幅3mの周堀がめぐる。南東の辺に開口する全長11.2mの長大な石室をもち、5.7mの前庭部がつづく。最奥部より屍室、後室、前室、羨道と区画される。床面は羨門まで切石が敷き詰められ、特に屍室棺床は排水溝が付設される。遺物は前室から刀片、鉄片、羨道から鉄片、土師器片、前庭部から柄頭不詳の大刀、金銅装弓弭、金銅製帯金具、鉄鏃、銀装大刀の1部品とみられる銀製吊金具残欠、木棺釘金具等が出土。

昭和39年、早稲田大学（中村恵次）調査。

西谷古墳　　富津市二間塚（50・65）

径15m、高さ1.8mの平地に築かれた円墳。南南東に開口する、全長7.3mの無袖の横穴式石室は、砂岩質の荒く加工された石塊で構築される。床面は隔石で玄室よりの羨道部から、鹿角装刀子3、ガラス小玉6、須恵器盌1が検出され、さらに人骨13体分以上が確認された。

昭和27年、早稲田大学（玉口時雄）調査。

八丁塚古墳　　富津市二間塚（140）

直径25m、高さ2.15mの円墳で周堀がめぐる。墳丘の中央部封土中にほぼ東西に主軸をもつ無袖式横穴式石室が構築される。後室、前室、羨道部に分かれ、全長11.2m、最大幅1.7m、高さ1.5mはかる。床面は後室のみ砂岩の板石を敷き、また前室と後室の隔石が存在する。後室より刀子2、鉄鎖2、尾錠3、鐔3、鉄鏃22、須恵器提瓶1、壺1、前室より耳環1、管玉1、棗玉1、直刀1、刀子1、鉄釘1、鉄鏃約20、須恵器壺1、蓋付杯2セット、土師器杯1、封土中より轡1が出土。また人骨は後室に於て屈葬の状態で1体、前室に10体以上が確認された。

昭和39年、早稲田大学（市毛勲）調査。

向原古墳　　富津市二間塚（37）

砂丘上に位置する径12m程の円墳と推定される。墳丘の大部分は調査時までに削平されていたが、付近にはないローム土により構築していると観察された。内部施設は墳丘の中央部地山下に構築された南南東に開口するL字型の横穴式石室。切石の乱石積で構築され、持送り状を

呈する。床面は後室のみ砂岩板岩が、前室の一部に貝殻が敷かれている。遺物は前室内より刀一括、刀子1、鉄鏃1、金環1、臼玉1、須恵器杯身1、蓋2と後室内より人骨4体、前室内より15体分が確認されている。古墳時代末期と報告されている。

昭和10年代，帝室博物館（高橋勇）調査。

野々間古墳　　富津市上飯野（295・327）

富津岬の平坦部のほぼ中央、東から延びる丘陵の最先端に所在。調査前に墳丘は削平されたが、径25m、高さ4m以上の円墳、あるいは方墳と推測される。内部施設は墳丘下旧表土上に築かれた片袖式横穴式石室。南東に開口し、長さ約8m、玄室長5m、幅1.3m、玄室と羨道の仕切りに閉塞石が存在する。側壁は残存する最大のもので2m×1m程、床面は砂岩切石が全面敷かれる。出土遺物は、大刀残欠、銀象嵌頭椎柄頭1、鐔1、大刀飾金具2、小刀2、鉄鏃3、耳環1、弓弭2、飾釘10、鉄釘3、緑釉新羅焼台付壺1、同蓋1、須恵器片2等が出土。出土遺物から7世紀後半代の築造と考えられる。

宅地造成により湮滅。遺物は房総風土記の丘資料館保管。

丸塚古墳　　富津市大堀字砂山（229）

小糸川下流域砂丘上に所在。径30m、高さ4mの円墳で周堀がめぐるが、西南部にブリッジが存在する。内部施設は無袖式横穴式石室で、礫石の間仕切によって羨道、前室、後室に区分される。直刀、鉄鏃、刀子、馬具、勾玉、管玉、切子玉、棗玉、丸玉、小玉、耳環、須恵器が石室内より、南側墳裾で土師器が出土。人骨は盗掘のため判然としないが、10体ほど埋葬されたらしい。6世紀後半に比定される。

昭和49年、早稲田大学（安藤鴻基）調査。後、区画整理事業により湮滅。

虫神古墳（きさき塚）　　富津市大和田（143）

富津古墳群の北方、小糸川の北岸標高80m程の台地上に所在。径15m程の円墳で、東に開口する片袖式横穴式石室をもつ。副室、玄室、羨道に分かれ、緑泥片岩の割石で隔石がそれぞれ存在する。床面は玄室では川原石、副室では貝殻を敷き詰める。人骨10数体の他、銀装の直刀、直刀、刀子5、鉄鏃、金銅製耳環8、須恵器平瓶1、長頸壺1、土師器盌1が出土。

昭和36年、平野元三郎調査。

弁天山古墳　　富津市小久保（26・173）

北に岩瀬川、南を小久保川によって限られた独立丘陵の西南端に所在。標高9.3m。海岸線の際に立地したと推定される。墳丘長86m、後円部径53m、同高さ8.5m、前方部幅50m、同高さ7.5mをはかる前方後円墳で、内部施設は後円部中央封土内に位置する竪穴式石室。長さ3.9

m、幅0.9m、高さ0.6mをはかり、側壁は頭大の石塊で構成され、そのすきまを粘土で補強する。天井石3枚遺存する。中央の一枚は縄掛突起様の造出を有し特異である。遺物は内部施設内の2個所で検出され、刀剣類、槍1、鹿角装刀子数個、鉄鏃10及び人骨片がある。また円筒埴輪片が周辺で検出されたと報告されている。

昭和46年、明治大学（大塚初重）測量調査。

一本松古墳　　富津市亀岡字東一本松（277）

染川下流の河岸段丘上に所在。径15m程の円墳であるが、遺存状態は悪い。直刀1が出土している。

昭和47年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

〔13.　君津市〕

八重原古墳群　　君津市中郷（195）

小糸川中流域北岸の台地縁辺に所在。7基の円墳で構成され、最大の円墳は消滅。

6号墳

径37m、高さ3.5mの円墳、墳頂下1mで北東方向に長軸を置く、長さ4.3m、幅0.5mの木棺痕を検出。北から順に鋲留短甲1、特殊鎗1、小形鉄斧3、鎌1、刀子1、直刀2、鉄鏃1群、短甲に付属すると考えられる鉄製品1が出土した。5世紀後半に比定される。

7号墳

径14.5m、高さ1.7mの小円墳。内部施設は墳丘の中央部基底面に存在する二段掘削の舟形土壙、東西に主軸を置き、外側で長さ6m、幅2.5m、深さ0.6m、内側は長さ4.5m、幅0.7m、深さ0.3mの大きさで両端に粘土塊が置かれ壙底に赤色料が散布する。墳丘の構築は土壙を掘削したのち封土を築いている。土壙内より、碧玉製管玉1、刀子2、鉄鏃13が出土。

昭和42年、杉山晋作調査。後湮滅。

道祖神裏古墳　　君津市外箕輪（278）

小糸川の沖積地と20mの比高差をもつ、西に向かって突き出す丘陵上の西南端に所在。南面する前方後方墳である。全長約56m、後方部一辺約34m、同高さ5m、前方部幅15m、同高さ2.5mをはかり、周堀は墳丘の片側だけめぐり、斜面側では途切れる。トレンチ出土の甕形土器の様相、立地及び墳形等の所見により、5世紀前半代の古墳と報告されている。小糸川流域では最も年代の遡る古墳として注目される。

昭和51年、明治大学（大塚初重）が測量及び試掘調査。昭和53年県指定史跡。

八幡神社古墳　　君津市外箕輪（342）

小糸川中流域北岸低地に位置する前方後円墳。東面する前方後円墳で墳丘長86m、後円部径42m、同高さ４m、前方部幅41m、同高さ３m程をはかり、幅後円部側で12m、くびれ部で22m程の楯形周堀がめぐる。後円部周辺には小円墳３基が点在する。本古墳は墳丘形態から古墳時代中期から後期にかけての所産と推定される。

昭和50年、明治大学（大塚初重）測量調査。昭和45年県指定史跡。

下郡古墳　　君津市下郡（58）

小櫃川の中流域西岸台地上に所在。墳丘長60m、前方部の短い前方後円墳。後円部が調査され、直刀、馬具、鉄鏃、鹿角装刀子等が出土した。木棺直葬施設内に副葬されたものと推定される。

昭和24年、国学院大学（大場磐雄）調査。

大竹12号墳　　君津郡袖ケ浦町大竹（276）

小櫃川中、上流域南岸、西に鎗水川をのぞむ台地上に所在。周辺には33基の円墳が確認されている。径約20mの円墳で、幅３m程の周堀がめぐる。内部施設は明確でないが、墳頂部で鉄剣１、刀子２等が出土しており、墳頂部に木棺が直葬されたものと推定される。周堀から須恵器杯３、土師器坩１、甕等が出土。５世紀末～６世紀初頭。

昭和50年、対馬郁夫調査。

馬門古墳　　君津市南子安馬門（225）

小糸川中流域北岸、ゆるやかにのびる丘陵の先端、標高６mに所在。近隣に12基の円墳が存在していたという。径21.4m、高さ3.5mの円墳で、4.3～5.5m幅の周堀がめぐる。内部施設は墳丘中央封土中に検出された土壙で、全長4.5m、幅２mをはかる。粘土の散布が認められる。直刀１、鉄鏃30、鉄剣１、刀子２、鉄斧２、滑石製勾玉１、臼玉77が出土。また墳頂部より円筒埴輪片、形象埴輪片が出土。出土遺物より５世紀末～６世紀初頭の時期が考えられる。

昭和44年、野中徹調査。国道127号線拡張整備により湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

下道古墳　　君津市南子安（294）

馬門古墳の北方丘陵端の緩斜面に所在。径23m、高さ２mの円墳。周堀が一周する。内部施設は墳頂部に２基並列する粘土を伴う施設。一方は全長2.5m、幅0.75m、他方は全長2.4m、幅0.8mで隅丸長方形の平面形を呈する。出土遺物は直刀２、刀子１、鉄鏃、ガラス玉、琥珀棗玉がある。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

南子安古墳　　君津市南子安（294）

下道古墳に隣接して所在。径20m、高さ0.9mの円墳。墳丘の遺存状態は悪い。内部施設は確認されていないが、直刀、刀子、鉄鏃、金環、小玉、切子玉等の遺物が検出されているので、木棺が直葬されていたものと推測される。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

南子安所在の古墳　　君津市南子安

馬門古墳の北方、丘陵の斜面に所在。径19m、高さ3mの円墳。周堀は検出されていない。墳頂部封土内に全長1.5m、幅0.45mの木棺直葬施設をもつ。隅丸長方形の平面形を呈す。直刀、鉄鏃、臼玉1が出土。野中徹調査。調査年不詳。

北子安堀込古墳　　君津市北子安字堀込（241）

小糸川下流北岸台地上に所在。周辺には河岸段丘の最上段にかけて、2基の円墳が存在する。本墳は一辺約17m、高さ2.5mの方墳。幅4～6mの周堀がめぐる。内部施設は墳頂部封土内に粘土の散布が認められたが、攪乱のため明確でない。遺物はかつて直刀1が出土したというが、中世以降の塚の可能性もある。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業により湮滅。資料は県立天羽高校保管。

子安坂古墳　　君津市北子安字子安坂（277）

小糸川中流北岸、丘陵端に所在。径25m、高さ3mの円墳。墳頂部封土内に木棺直葬施設をもつ。直刀、臼玉が出土。

昭和48年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。遺物は県立天羽高校保管。

杢師古墳　　君津市杢師（277）

小糸川の河岸段丘上に所在。遺存状態が悪く、形状、周堀の有無は不明。かつて直刀1が出土したという。

昭和47年、野中徹調査。土地区画整理事業に伴い湮滅。

〔14.　木更津市〕

手古塚古墳　　木更津市小浜（210）

北に矢那川、南に小糸川をのぞむ標高50～60mの丘陵のうち、海岸線に沿って北北東にのびる馬背状丘陵の北端に所在。前方部を北北東に向け、地形の制約を受けた形で築造された前方後円墳。墳丘長60m、後円部径35m、同高さ5m、前方部幅28m、同高さ3mの大きさで、基盤面を2m内外整形して墳形を確定し、その後に盛土し封土を築く。後円部墳頂下で粘土槨を

検出。北東の方向を指し、墳丘方向とは不一致。槨の基盤は粘土床を設置するために、若干その範囲のみを凹め、棺を固定するために、周囲を粘土で押さえ、壁体を築く。槨の大きさは、長さ9.2m、幅1.8mをはかる。南端に小石を敷きつめた排水溝が付設される。幅0.4m、深さ0.15mの大きさで6m程つづき、地山整形がおこなわれた地点までのびる。内部施設からの出土遺物は、頭部近くに、鏡2（仿製三角縁神獣鏡、舶載四獣鏡）、石釧2、車輪石1、紡錘車1、籠手一対、刀子2群（3本程度を一群とする）、胸部近くに管玉1、ガラス小玉5、粘土槨の東側外、朱層の南端に銅鏃20（柳葉形の単一形式）、鉄鏃30以上（三角形、五角形式）、直刀3、剣1、鉄斧1、粘土槨南端排水溝との接点で布留式の甕1個体（内部に朱が充満）が出土。以上の出土遺物からみて、畿内的色彩をおびた4世紀の後半に比定される古墳として、注目される。

昭和48年、杉山晋作他調査。後湮滅。遺物は県立上総博物館保管。

大塚山古墳　　木更津市祇園（131・284）

小櫃川下流南岸低地に所在。墳丘、内部施設の調査は不充分であり、前方後円墳で、組合せ式箱式石棺を有することのみが報告されているが、内部施設からの出土遺物は注目される。画文帯四仏四獣鏡1、金銅製製眉庇付冑1、金銅製小札約800（大小4種類）、鉄小札、銀製耳飾残片数個、鉄鏃、銀製装具残片（鎹に巻いた銀の薄板）。以上の遺物は、大陸文化の影響を強く受けたものであり、5世紀後半に比定される。

鏡は宮内庁、その他の遺物は東京国立博物館保管。古墳は現存せず。

金鈴塚古墳　　木更津市長須賀字熊野廻（41・42・61・115）

小櫃川下流域南岸、砂丘列上（俗称浜長須賀）の中央、標高5.5mに所在。略西南西を向く前方後円墳であるが、畑地化されて、後円部の一部のみ旧状をとどめる。墳丘の比較的残存のよい部分と地籍図等から推測して、墳丘長95m、後円部径55m、前方部幅72mの規模で、墳丘は3段築成と推測される。また幅7.5～10mの周堀、外堤帯が存在し、全長は130m程と推測される。内部施設は後円部裾の南南東方向に開口する無袖式横穴式石室。羨道は道路により削平されていたが全長約10.3m、幅1.5～2mで、地山より、奥壁部分で1.6m、羨道部分で1.2m程盛土したのちに、やや傾斜した床面を形成し、奥壁から7.5mまで粘土敷と部分的な石板とで構築する。側壁は凝灰岩を若干持送り状に横積し、天井石は9枚で構成される。また石室ほぼ中央西側に、内法長1.7m、幅0.6m、深さ0.6m程の緑泥片岩の組合式箱式石棺が設置される。遺骸は石室内、石室奥部、石室前部とに計3体あった。副葬品は盗掘を受けていないと思われ、下記のとおり、きわめて豊富に出土した。出土位置は4地点に区分される。石棺内から、服飾品として勾玉1、丸玉6、琥珀玉17、金環2、三神五獣鏡1、金モール、武具類として衝角付兜1、柱甲1、環頭大刀1、圭頭大刀3、頭椎大刀2、鳥首大刀2、刀子約11、鉄鏃36、

馬具類として馬鐸３、金銅飾金具18、金銅鈴54、その他として銅容器２、異形木器１が出土。石棺前方部及び羨道から服飾品として丸玉20、小玉561、琥珀玉10、金環４、飾履１、武具類として環頭大刀１、方頭大刀１、弓弭２、馬具として鞍１、杏葉２、雲珠３、方形金具２、その他として銅容器２、釘若干が出土。石棺の横から、馬具類として轡３、鞍２、杏葉４、鏡板４、雲珠７、辻金具３、方形金具13、馬面２、その他として土器23が出土。石室奥部から、服飾品として丸玉10、切子玉１、琥珀玉４、金鈴５、金モール、腰佩若干、仿製鏡１、武器類として環頭大刀５、円頭大刀１、鳥首柄頭１、弓弭５、鉄鉾１、鉄鏃多数、馬具類として鞍１、馬鐸３、鏡板２、杏葉２、雲珠３、方形金具３、その他として土器多数、銅容器１、金銅葆２、以上が出土。土器は石棺内では皆無、石室奥部に集中して出土し、石棺のまわりにも若干あった。個数は須恵器242以上、土師器26を数える。器種は須恵器杯111、高杯52、杯蓋55、台付瓶８、瓶５、盌４、横瓮３、台付盤１、提瓶１、坩１、平瓶１、土師器高杯18、杯３、耳付盌１、蓋杯身４がある。以上の出土遺物からみて、本墳は大陸文化の影響を受けた有力な古墳であり、築造年代は７世紀後半と考えられる。なお昭和７年石室羨道部が道路で削平された際、金銅鞍の一部、雲珠、金銅飾履が出土し、現在東京国立博物館が保管。

昭和25年早稲田大学（滝口宏他）の学術調査がなされ、遺物は木更津市金鈴塚保存館及び県立上総博物館が保管。遺物は一括重要文化財指定され、古墳は県指定史蹟で石室と後円部の一部が現存する。

稲荷森古墳　　木更津市笹子（24、341）

ほぼ南北に主軸をとる墳丘長約140ｍの前方後円墳である稲荷塚古墳の近くに存在した。明治14年、削平された際、鏡破片１、鈴２、直刀２、土器１、及び長巻のようなもの１を出土したという。

高柳銚子塚（長州塚）古墳　　木更津市高柳（24・341）

平地に占地した前方後円墳で前方部は南面する。周堀が存在し楯形を呈すると推定される。明治時代末年の鉄道敷設工事（房総西線）の際前方部が削平され、現在後円部の一部を残すのみ。円筒埴輪片が確認されている。また直弧文を有する滑石製刀子、鎌、鏡の石製模造品は本墳出土と考えられる。

塚の越古墳　　木更津市朝日２丁目（旧長須賀字塚の越）（226）

旧君津病院本館付近、字塚の越136番地一帯に所在。明治42年３月、開墾中に遺物が検出された。内部施設は横穴式石室と推定される。変形四獣鏡半欠１、鞍金具の付属部分である金銅製品１、鉄鏃５、ガラス玉２、琥珀玉１、須恵器長頸壺１が出土。古墳は現存せず。遺物は県立上総博物館保管。

鶴巻塚　　木更津市祇園（24・341）

久留里線祇園駅の南、県道をへだてた10m程の祇園字鶴巻５番地付近にあった。周堀がめぐる円墳で、墳丘下約１mに長持形の石棺様のものを検出。出土遺物は銅鏡２（神獣鏡、画文帯四仏四獣鏡）、馬鐸２、鈴４、冑破片、円頭大刀１、円頭大刀残欠２、大刀残欠２、鐸及び鏃１、圭頭大刀残欠１、環頭柄頭（金銅製獅子）、銅器残欠２、鏃数本、杏葉２、鞍２、鏡板残欠、鉄器残欠、琥珀棗玉１、ホウヅキ玉、杯３、杯蓋２、蓋２、高杯２、高杯残欠１、蓋付坩１等が出土。昭和43年頃、祇園団地造成にともない整地された。

明治41年６月、村人木村新太郎が発掘、遺物は東京国立博物館、東京大学、四仏四獣鏡は五島美術館と分割保管されている。

丸山塚古墳　　木更津市長須賀（341）

墳丘長65m程の前方後円墳。昭和初期に後円部が削平され、横穴式石室内から遺物が出土している。銅鋺、銅鈴、直刀、金環、鉄鏃、土師器がある。石室天井石は海蝕痕がある凝灰岩といわれる。現在前方部を残すのみである。

元新地（松面）古墳　　木更津市松面269番地付近（341）

昭和15年、君津病院建設の際整地された。金銅製双魚佩、金銅製玉台状腰佩、環頭大刀、方頭大刀、頭椎大刀、銀装弓弭、馬具一括、鉄鏃残片、須恵器蓋付高杯等が出土。遺物は東京国立博物館に保管されている。

瑠璃光塚古墳　　木更津市桜井（341）

峰の薬師(東光院)境内に所在する。東京湾を見下す丘陵先端に占地する円墳。内部施設の調査が行なわれ、墳頂下に築造された無袖式横穴式石室が検出された。長さ5.4m、幅1.5m程をはかる。床面は拳大の石を敷き詰める。天井石は海蝕痕のある凝灰岩で、見渕日枝神社境内の記念碑の台石として現存する。直刀、耳環、琥珀製勾玉、水晶切子玉、緑色管玉、棗玉、須恵器平瓶、高杯、壺、甕等が出土。人骨８体分が検出されている。出土遺物は東京国立博物館が保管。

昭和14年小熊吉蔵調査。

清川村古墳　　木更津市長須賀（341）

墳丘長76.5m、後円部径34m、同高さ５m、前方部幅26.5m、同高さ5.4mをはかる前方後円墳で、前方部は南南西面する。後円部墳頂下に横穴式石室が検出された。砂岩切石積と推定され、玄室床面は全面に石敷される。羨道部はすでに破壊されていたが、玄室内より直刀９及び残欠、鉄鏃数10本、鈴１、金環８、勾玉２、切子玉５、琥珀玉６、ガラス玉23、須恵器瓶２、

台付壺１、提瓶１、平瓶３、高杯10、蓋20、鉢３、皿14が出土。

矢畑１号墳　　木更津市矢郷

矢那川中流の河岸段丘上に所在。墳丘の大部分は削平されており、形状及び周堀の有無は不明。東西の方向をとる木棺直葬施設をもつ。現存長2.9m、幅0.6～0.65mをはかり、西側の底面に白色粘土の散布がみられる。鉄剣１、直刀１が出土。５世紀末葉と考えられる。

昭和51年、荒木誠調査。畑地造成に伴い湮滅。遺物は木更津市教育委員会保管。

下部多山古墳　　木更津市田川字部多谷（212）

小櫃川中流の西岸台地縁辺部に所在。円墳で、幅３～４ｍの周堀がめぐる。内部施設は検出されていない。墳丘下より金環１、墳丘中より須恵器大甕、瓶、杯蓋が出土。なお本墳を利用して、江戸時代の塚が重複している。

昭和48年６月、千葉県都市公社文化財調査事務所（天野努）調査。送電線建設に伴い湮滅。資料は房総風土記の丘資料館保管。

清見台古墳群　　木更津市相里及び太田（144）

小櫃川により開析された沖積地を北に見る、東西にのびる標高50～60mの太田山丘陵上に立地する。この丘陵は幾つかの小支丘を派生させ、東から太田（A地区）、相里（B地区）、宮下（C地区）と呼ばれる支丘上にそれぞれ、９基、８基、５基の円墳が確認され、A地区５基、B地区４基を調査。C地区の古墳は未調査。

A－１号墳

丘陵の最北端、裾部にある隆起地点に位置する。周堀と思われる落込みが検出されたのみで、墳丘形態は不明。内部施設は未検出。自然の隆起の可能性もある。

A－３号墳

丘陵尾根の北端部に位置する。径19m程の円墳で幅２～３ｍの周堀がめぐる。内部施設は破壊されていたが、粘土粒の散布から、粘土を若干用いた木棺直葬施設と推察される。円筒埴輪片、須恵器片が出土。

A－４号墳

A－３号墳の南方約30mに所在。破壊、盗掘を受けず、原形をよくとどめる。径15m、高さ１ｍの円墳で、幅1.5～２ｍの周堀がめぐる。内部施設は墳丘中央封土内に位置する。東西に長軸をおく墓壙で、長さ2.6m、幅0.6m、深さ0.15mをはかる。中央から両端に向かい幅を狭め、東端に粘土塊を置く。墓壙の中央で臼玉14、西端部で直刀１、鉄剣１が出土。また周堀内より円筒埴輪３本が出土。

A－５号墳

A地区古墳群の西端に位置し、A－4号墳の70m程西にある。径17m、高さ1m程の円墳で、幅2mの周堀がめぐる。墳丘中央封土中に長さ2.7m、幅0.75mの長方形を呈する墓壙があった。ほぼ東西に長軸をもち、西端部と中央に粘土塊が検出された。墓壙東部中央から鉄刀1が出土。

A－8号墳

丘陵の東南端に所在。径24m、高さ3mの円墳で、幅3～5mの周堀がめぐる。墳頂部中央に長軸を東西においた墓壙が検出された。長軸2.6m、幅0.7mをはかるが、盗掘壙によって大きく破壊されていた。床面はローム粒によってつき固められ、その上面に炭化物の薄層が堆積していた。刀子1が出土。また墳頂部から猪形の形象土製品1、朝顔形円筒埴輪、土師器杯1、周堀から土師器坩1、甕2が出土。

B－1号墳

丘陵の最北端に占地する径16m、高さ1m程の低平な円墳。幅2～3mの周堀がめぐる。墳頂部中央に長軸を東西においた墓壙を検出。長軸長2.8m、幅東端部で0.63mをはかり、西端に向かい幅をせばめる。南壁に沿い直刀1、北壁に鉄鏃20が出土。

B－2号墳

径約20m、高さ2.7mをはかる円墳で、幅3～4.3mの周堀がめぐる。墳頂下0.3mで、長さ6.05m、幅2.95mの隅丸長方形の墓壙が確認され、内部に長さ3.54m、幅0.7mの木棺痕が検出された。長軸方向はほぼ南北をさす。清見台古墳群中では最も完備した内部施設である。鉄鏃1、碧玉製管玉5、滑石製臼玉2が出土。

B－3号墳

径15m、高さ約1.5mをはかる円墳で、幅0.85～1mの周堀がめぐる。墳頂部封土中で、長さ3.35m、幅1.6mの土壙が検出された。ほぼ東西に主軸方向をもつ。粘土塊が認められたが出土遺物はなし。

B－4号墳

B地区古墳群の南端に位置する。径15m、高さ約2.5mをはかる円墳で、西側で途切れる馬蹄形の周堀を有する。幅2.3～3.2mをはかる。内部施設は未検出。

昭和43年、早稲田大学（中村恵次）調査。宅地造成に伴い湮滅。資料は早稲田大学考古学研究室保管。

さかもり塚　　木更津市柳町（24・341）

前方後円墳であり、明治45年頃、墳丘を削平したところ、鏡、甲冑、刀剣、土器が出土。内部施設は石槨と報告されている。現存せず。

清水谷古墳　　木更津市菅生（261）

小櫃川南岸の沖積地にのぞむ丘陵上に所在する。標高40m、水田面との比高差30mをはかる。径約25mの円墳であるが、前方部地山整形による前方後円墳の可能性も考えられる。墳丘築造は、墳丘高の３分の１から半分の高さを地山整形によって作り出し、その上に盛土する手法をとる。内部施設は削平されたためか検出されていないが、墳頂部で検出された多量の粘土から粘土槨等の施設が考えられる。出土遺物に決め手がないが、報告者は墳丘築造方法から考えて５世紀前半代の古墳と報告している。

昭和50年、杉山晋作調査。

請西古墳群　　木更津市請西（244・247・248・293）

矢那川の中流域南岸、標高50m程の丘陵地帯に所在する請西古墳群中の１基。この古墳群の名称は、木更津市の古墳群を８区域に分割した滝口宏のそれを踏襲したもの。昭和48年末、千葉県教育委員会による発掘予備調査、昭和49年から昭和51年まで椙山林継他による本調査が行なわれた。椙山は群中の古墳の名称を、所在地の小字名（道上谷、庚申塚、大山台、山伏作、鹿島塚、野焼、東山、諏訪谷）によって付した。そのうち調査されたのは、道上谷、庚申塚、大山台、山伏作等の古墳である。

道上谷１号墳

道上谷の古墳は、請西の丘陵中最も東に位置する中郷谷地区の丘陵北辺に所在する。６基前後の小規模古墳群で、弥生時代後期から古墳時代初期にかけての小規模集落が廃絶した後に造営された。１号墳は群中もっとも北に位置し、傾斜面にかかる地点に占地する。径18m、高さ２m程の円墳で斜面のため東側のみ幅3.5m程の周堀がめぐる。内部施設は墳丘のほぼ中央、封土中のロームブロックの基盤上に構築された長さ3.1m、径0.6mの土壙で、小口部両端に粘土塊が存在する。中央部よりやや南で刀子１が出土。また周堀内から須恵器杯蓋が出土。

道上谷２号墳

１号墳の南東、庚申地区から北西方向にのびる丘陵の細尾根上に占地する。傾斜面に位置する径12mの円墳。幅3.5m程の周堀がめぐる。墳丘のほぼ中央に主軸を置く土壙が検出された。墳頂部から開鑿されており、長さ3.5m、幅0.7～0.8mをはかる。小口部に粘土まじりのローム土を充てる。中央に直刀１、西側中央で鉄鏃11等が出土。また周堀から須恵器杯２、杯蓋２、土師器杯１、石製有孔円板１が出土。

道上谷３号墳

２号墳のすぐ南に隣接する。ゆるやかな傾斜面に位置する。径11m、封土高１m程の円墳。幅2.7m程の周堀が部分的にめぐる。内部施設は墳丘中央地山下に掘りこまれたほぼ南北に主軸をもつ隅丸長方形の土壙。少量の粘土があった。周堀から土師器杯１、杯蓋１が出土。

庚申塚６号墳

道上谷の古墳群の東側、東西に尾根状にのびる狭隘な丘陵で、接続して庚申塚の台地がある。